

2024 年度新入生合同研修  
活動報告書



新入生合同研修委員会

# 目次

1. ごあいさつ .....	2
2. 2024 年度新入生合同研修のテーマ及び目的について .....	3
3. 開催概要 .....	3
4. 研修当日スケジュール .....	4
5. 座席配置図 .....	5
(1) グランキューブ大阪 3 階 イベントホール 座席配置図 .....	5
(2) 3 階イベントホール 当日風景 .....	6
6. 開会式（学長からのメッセージ） .....	7
7. 卒業生・在学生からのメッセージ .....	7
8. グループ別討議 .....	8
(1) グループ討議① .....	8
(2) グループ討議① 当日風景 .....	9
(3) グループ討議② .....	10
(4) グループ討議② 当日風景 .....	10
(5) グループ討議での新入生の様子について .....	11
9. 学生によるポスター掲示、成果物への投票について .....	11
(1) 大グループへの割り振りについて .....	11
(2) ポスターの掲示について .....	12
(3) 投票について .....	12
(4) 投票 当日風景 .....	13
10. 講演・実技 .....	14
11. 成果発表会 .....	16
(1) 成果発表会 .....	16
(2) 最も投票数が多かったグループの成果物 .....	16
(3) 成果発表会 当日風景 .....	17
12. 新入生合同研修委員会の活動について .....	18
(1) 準備・実施スケジュール .....	18
(2) 新入生合同研修委員会 開催状況 .....	19
(3) 新入生合同研修委員会 委員一覧 .....	20
13. 新入生アンケート結果(選択：回答数 316) .....	21
14. 教員アンケート結果 .....	39

## I. ごあいさつ

大阪医科大学と大阪薬科大学は、2016年に法人合併、2021年に両大学が大学統合し、1年生から6年生まで段階的に実施される専門職連携教育 [IPE : Interprofessional Education] が整備され、信頼関係を築くための高度な知識と技術を修得します。

専門職連携教育のスタートとなる3学部の新入生を対象とした新入生合同研修を、「良き医療人をめざして踏み出す第一歩のために」をテーマとして、2024年4月26日にグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）にて開催しました。

2021～2022年度はコロナ禍のためオンライン開催でしたが、2023年度より対面開催となり、2024年度は新入生約500人と教職員約50人が参加しました。

企画および運営は、3学部の教職員で構成する新入生合同研修委員会が中心となり、2023年11月から新入生合同研修委員会を毎月開催し、準備を進めました。新型コロナウイルスの感染拡大が予期できないなか、2023年度の学生アンケートでは、対面での開催について非常によかったという声が大多数であったことを受けて、新入生合同研修委員会では第1回委員会にて対面開催を決定し、準備を進めました。

研修内容としては、学長からの動画メッセージを皮切りに、卒業生・在学生からの動画メッセージを視聴しました。2023年度に引き続き大阪ライフサポート協会による心肺蘇生の講義の後、2024年度は実技を追加し、2人1組で胸骨圧迫とAEDの使い方を学習しました。グループ別討論では、ポスター作成を行い、各グループが作成したポスターを掲示し、学生が投票を行いました。投票上位4グループは、成果発表会で登壇し、発表を行いました。今回は実技やグループ別討論の時間配分を増やし、より実践型のプログラムになりました。

学生アンケートにおいても、グループ別討論や実技などを通したコミュニケーションにより他学部生との交流が深まったとの声を聞くことができました。

本研修の開催並びに運営にご協力頂きました学長、各学部長を始め、チューター教員の先生方、職員の皆様には深く感謝申し上げます。

新入生合同研修委員会

## 2. 2024 年度新入生合同研修のテーマ及び目的について

テーマ：「良き医療人をめざして踏み出す第一歩のために」

目的：医学部・薬学部・看護学部の新入生が、新入生合同研修を通じて、多職種連携、医療人マインドの醸成、プロフェッショナリズムの基礎を涵養し、医療人としての第一歩になることを目的とする。

## 3. 開催概要

開催日時：2024年4月26日（金）10:00～18:00

開催会場：グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）3階イベントホール

【閉会式後 記念写真】

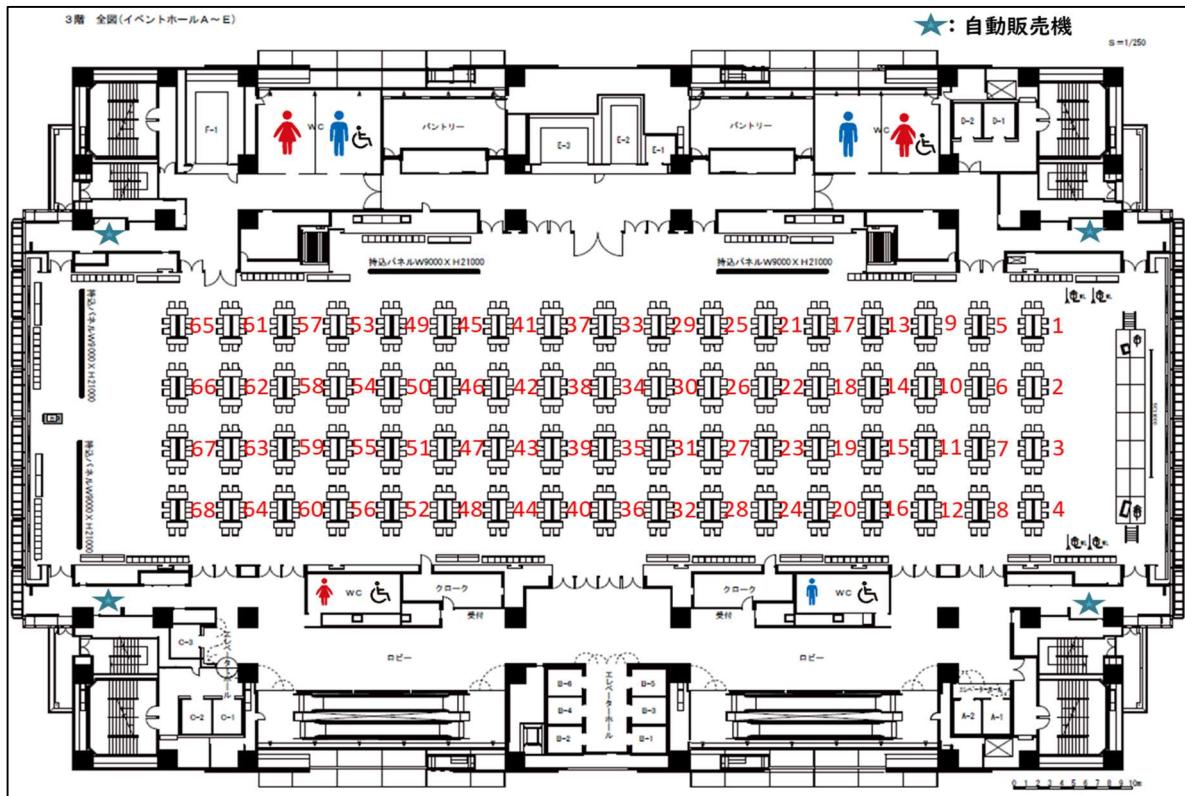


#### 4. 研修当日スケジュール

2024年4月26日（金）		
時刻	項目	内容
9:30	◆学生入場開始	・会場に入場し、座席にて待機してください。
10:00	◆開会式・オリエンテーション	・学長からの動画メッセージ ・オリエンテーション
10:15	◆卒業生・在学生からのメッセージ	・医学部関係 6分（川口様・本学一般・消化器外科学教室、医学・看護学部学友会） ・薬学部関係 6分（石原様・一般財団法人住友病院薬剤部、薬学部学友会） ・看護学部関係 6分（松島様・大阪医科大学病院看護師、看護学部4年）
10:35	◆グループ別討議①	・全体説明 5分 ・自己紹介 10分 ・個人ワーク 10分 ・チームビルディング 5分 ・グループワーク 30分
11:40	◆昼休憩（1時間）	
12:40	◆グループ別討議②	・グループワーク 100分
14:20	◆ポスターの掲示・投票の説明	
14:30	◆投票開始および待機	一回での投票
15:00	講演・実技の準備	「あっぱくん」「あっぱくんライト」の配布等
15:10	◆講演・実技（実施後の片付け含む）	「目の前で人が倒れたらどうしますか？～心肺蘇生・AEDの使い方～」 大阪ライフサポート協会 理事長 西本泰久様
17:00	◆成果発表会	・投票上位4グループの発表 5分×4グループ=20分 ・その他質疑応答 5分×4グループ=20分
17:40	◆アンケート実施	・Google フォームにてアンケート回答
17:50	◆閉会式	
18:00	◆終了	

## 5. 座席配置図

### (1) グランキューブ大阪 3 階 イベントホール 座席配置図



以下の通り、68 グループにグループ分けを行い、座席配置を上記図面の通りとした。また、グループには、3 学部の学生が必ず含まれるようにグループ分けを行った。なお、2024 年度の新入生数を案分して、各学部で、チューター教員を選出した。チューター教員には、グループ討議において、4つのグループを 2 人で担当し、グループ討議のファシリテート、資料・備品配布及び回収、成果発表会への参加などを行った。

- ・新入生を 68 グループにグループ分け

グループ 1～49 : 8 人グループ

グループ 50～68 : 7 人グループ

- ・教職員 参加者内訳

教員数：44 人、うちチューター教員 34 人（医学部 7 人、薬学部 21 人、看護学部 6 人）

職員数：10 人（医学事務課 5 人、薬学学生課 3 名、看護学事務課 3 名、企画・広報課 1 名）

## (2) 3階イベントホール 当日風景



2023年度と同様に、新入生合同研修はグランキューブ大阪3階イベントホールをメイン会場とした。また、4階控室に救護室を設け、保健管理室の教員が救護室の対応を行った。また、3階イベントホールのお手洗いは、男女ともに3カ所あったが、休憩時間に集中し、混雑することを避けるため、当日のオリエンテーションにおいて、グループ別討論などの時間中に適宜お手洗いを利用するよう周知を行った。また、後方席から前方のスクリーンが見えにくい場合を考慮し、後方にもモニターを2台設置した。

## 6. 開会式（学長からのメッセージ）

開会式において、学長からの新入生への動画メッセージの視聴を行った。



## 7. 卒業生・在学生からのメッセージ

各学部の在学生 1名、卒業生 1名からの新入生に向けた動画メッセージ(約 5 分間)を視聴した。在学生からのメッセージには、将来を見据えて、学生生活を有意義に過ごすポイントなど、具体的な内容が含まれており、新入生が大学時代をどのように過ごすか、イメージを抱くことができた。また、卒業生のメッセージには、将来医療人となり、どのような仕事に取り組んでいるか、医療人としてやりがいを感じた具体的な出来事、卒業してから気づいた大学の良い所などが含まれており、医療人を目指す新入生の将来像として参考にすることができた。

- |        |   |
|--------|---|
| 医学部関係  | 川口直様（大阪医科大学 医学部 一般・消化器外科学教室）<br>小林眞子さん（大阪医科大学 医学部 5年生・学友会前会長） |
| 薬学部関係  | 石原理沙様（一般財団法人住友病院 薬剤師）<br>高津美咲さん（大阪医科大学 薬学部 4年生・前学友会執行委員長）     |
| 看護学部関係 | 松島穂花様（大阪医科大学病院 看護師）<br>長井菜月さん（大阪医科大学看護学部 4年生）                 |

## 8. グループ別討議

新入生合同研修のメインプログラムであるグループ別討論を、以下の内容で行った。

グループ別討議「良き医療人となるためのアクションプランをつくろう！」

### 【グループ討議の内容】

1. 将来どのような“良き医療人（医師・薬剤師・看護師など）”になりたいのか、様々な視点でとらえて自己分析し、グループで共有してください。
2. グループとして“良き医療人”とは何かを導き出し、“良き医療人”になるためには、学生生活をどのように過ごすのか、アクションプランを作製して、ポスターにまとめしてください。

アクションプランとは・・・

“良き医療人”を目指すための学生生活における行動計画（守るべき事項、自らが課す約束事、ルーチンなど）であり、グループとして考案してください。必要に応じて、大学（教員）、友人、社会などとの関わりを含めてください。また、各学部で修業年限が異なることから、アクションプランの具体的な期限を定めず、検討してください。

### (1) グループ討議①

午前10時35分からのグループ討議①では、初めに学生が自己紹介を行い、その後、個人ワークとして将来どのような良き医療人になりたいか各自で分析し、その考えた内容を「目標設定シート」に書き出した。その後、チームビルディングとして役割分担を行った後、30分間のグループワークを行った。グループワークでは、個人ワークで導き出した内容をそれぞれ発表し、良き医療人になるために学生生活をどのように過ごすのかグループで話し合いを行った

#### ・グループ討議① プログラム

##### 1. 全体説明（5分）

##### 2. 自己紹介（10分）

名前、学部、趣味や出身、特技などの自己紹介（1人1分×7～8名）

##### 3. 個人ワーク（10分）

将来どのような“良き医療人（医師・薬剤師・看護師など）”になりたいのか、様々な視点でとらえて自己分析を行い、「目標設定シート」に可能な範囲で記入する。

##### 4. チームビルディング（5分）

司会、発表者、書記、タイムキーパーを決める

※司会と発表者は兼務可、ポスター作製は全員で。

#### 5. グループワーク① (30分)

将来どのような“良き医療人（医師・薬剤師・看護師など）”になりたいのか、個人ワークで導き出した内容を発表する（1人2分×7～8人）

個人ワークの発表から、“良き医療人”とは何か、“良き医療人”になるためには、学生生活をどのように過ごすのかを、グループで話し合う（15分）

#### (2) グループ討議① 当日風景



### (3) グループ討議②

お昼休憩後の 12時40分から 100 分間グループ討議②を行った。グループ討議②では、午前中の討論を踏まえて、“良き医療人”とは何かを導き出し、“良き医療人”になるためには、学生生活をどのように過ごすのか、グループとしてアクションプランを作製して、グループで協力し、ポスターにまとめた。また、ポスター作製にあたっては、以下の留意点を予め学生に伝えた。

#### ポスター作製について

他者へ効果的にアクションプランを示すために、具体的なイメージ、キーワード、簡単な説明文をポスターにまとめてください。

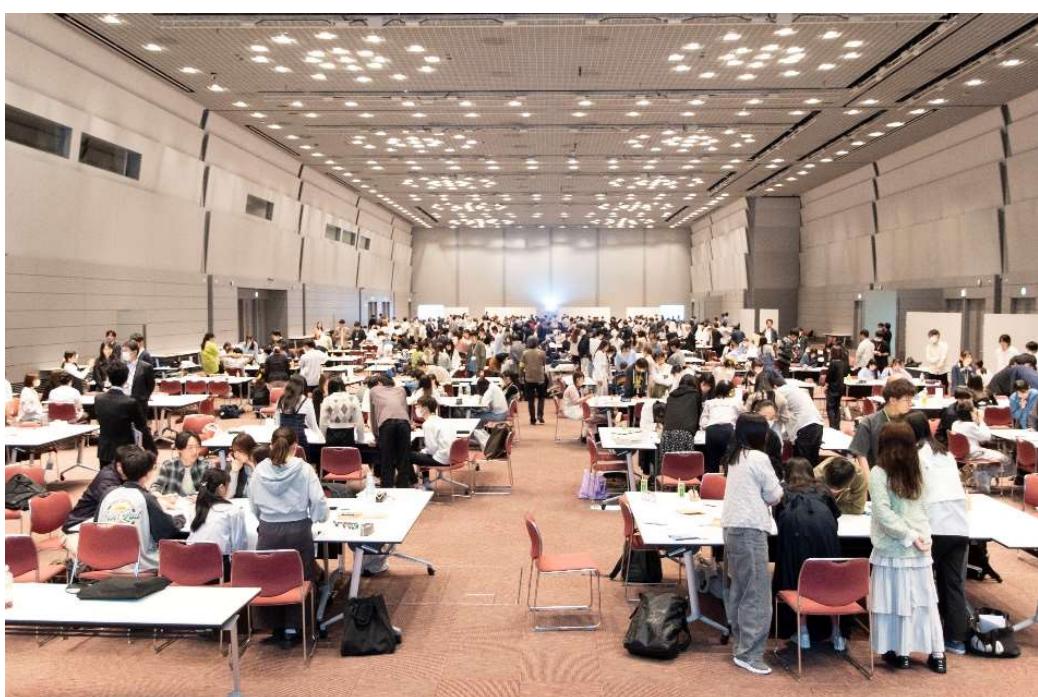
##### ①ポスターに必ず入れる項目

1. どのような“良き医療人”になりたいのか具体的なイメージとその説明
2. 良き医療人になるために、学生生活をどのように過ごすのか、様々な視点でとらえたアクションプランとその説明
3. ポスターの右上に、『グループ番号』を記入

##### ②ポスター作製の留意点

1. グループで協力して、ポスターを清書する。
2. ポスター1枚に発表の内容をまとめる。
3. 文字は大きく見やすいように記入する。
4. 効果的にアクションプランを示すためにイラストや図表を適宜使用する。

### (4) グループ討議② 当日風景





#### (5) グループ討議での新入生の様子について

グループ討議①が始まった頃は、初対面の学生もいることから少し緊張した様子だったが、グループワーク①で自分の意見をメンバーに説明し、グループ討議②が始まった頃には、新入生同士の交流が活発に行われ、机やテーブルのレイアウトを変更してリラックスした状態で、積極的にグループ全員でポスター作製を行う様子が見られた。

休憩時間などの合間の時間を利用し、学生が同じグループの学生等と交流を行うことで、学生の関係性が深まり、学生が楽しみながらポスター作製することができた。

### 9. 学生によるポスター掲示、成果物への投票について

#### (1) 大グループへの割り振りについて

学生によるポスター掲示及び成果物への投票に先立ち、以下の通り、4つの大グループ(A,B,C,D)に、グループ分けを行った。

【大グループ割り振り】 大グループA：グループ1～17

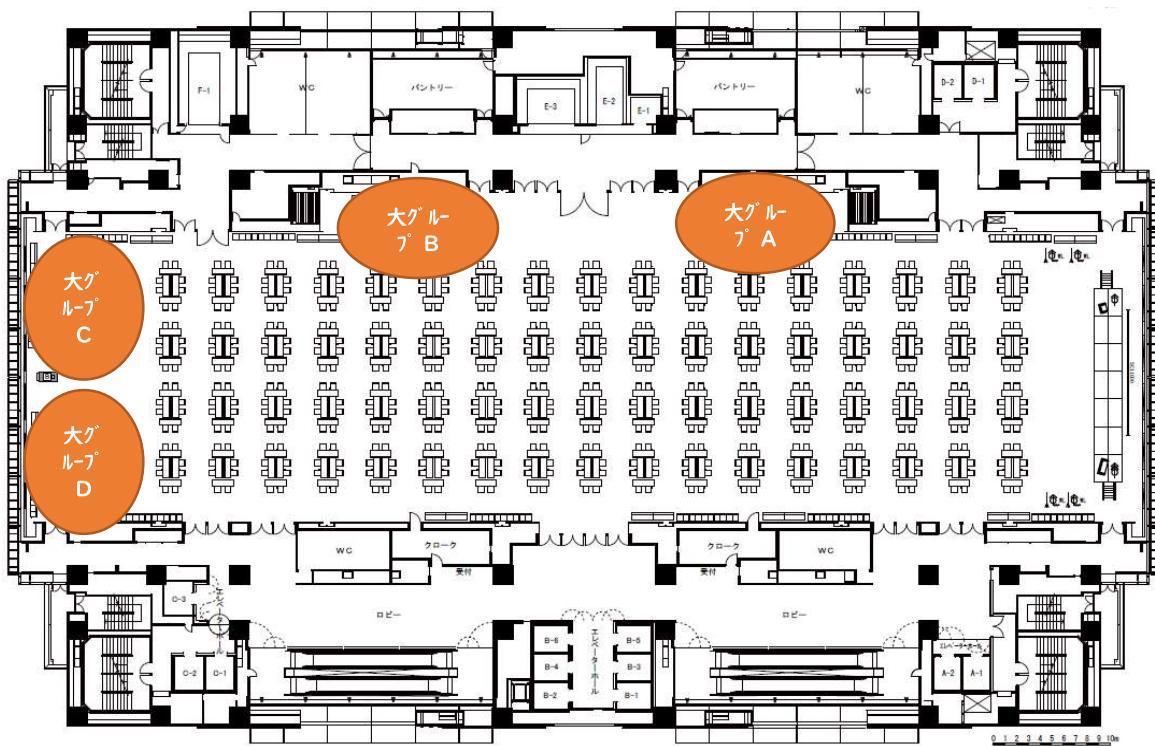
大グループB：グループ18～34

大グループC：グループ35～51

大グループD：グループ52～68

## (2) ポスターの掲示について

以下の箇所に、パネルを設置し、各グループの代表者が、グループ番号の表示があるパネルに、グループ討議の成果物であるポスターの掲示を行った。



## (3) 投票について

ポスター掲示の後、成果物のポスターを新入生が見て回った。

投票については、14：30～15：00 の 30 分間で以下の指定された大グループのポスターを見て回り、時間内に、研修実施要領（当日配布資料）に記載された QR コードを学生自身のスマホで読み取り、アクセスした投票ページから投票を行った。スマホを利用できない学生は、紙で投票できるよう準備を行った。

学生自身のスマホを用いることにより、学生による成果物への投票を可能とし、成果発表会までの集計作業を円滑に行うことができた。

以下のとおり投票した。

- グループ 1～17 の学生は、大グループ B (グループ 18～34) のポスターを見て投票
- グループ 18～34 の学生は、大グループ A (グループ 1～17) のポスターを見て投票
- グループ 35～51 の学生は、大グループ D (グループ 52～68) のポスターを見て投票
- グループ 52～68 の学生は、大グループ C (グループ 35～51) のポスターを見て投票

#### (4) 投票 当日風景



## 10. 講演・実技

講演では、大阪ライフサポート協会 理事長の西本泰久氏に、「目の前で人が倒れたらどうしますか？～心肺蘇生・AED の使い方 JRC 蘇生ガイドライン 2020 に沿った蘇生～」という演題で講演頂いた。また座長は、新入生合同研修委員会副委員長で医学部教授の金沢徹文先生が行った。



実技で学生はあっぱくん、あっぱくんライトというトレーニングキットを用いた胸骨圧迫と AED の使い方を学習した。





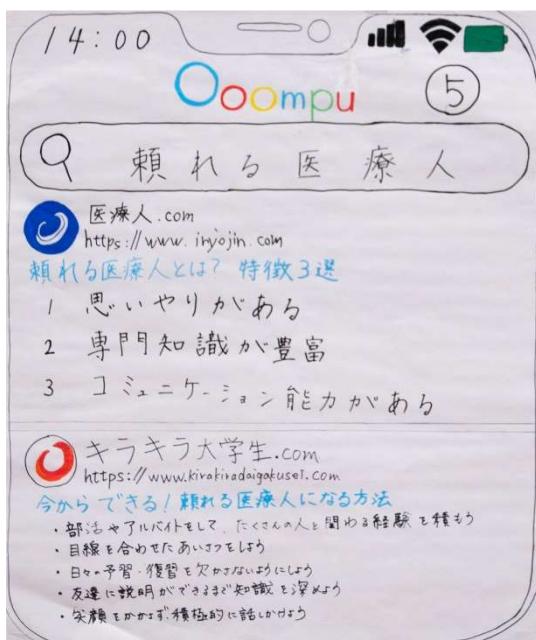
## II. 成果発表会

## (1) 成果発表会

学生の投票により、4つの大グループのなかで最も投票数の多かったグループは登壇し、“良き医療人”とは何か、“良き医療人”になるためには学生生活をどのように過ごすべきか、成果物を用いて発表を行った。またグループを担当したチューター教員も登壇し、コメントを頂戴した。

## (2) 最も投票数が多かったグループの成果物

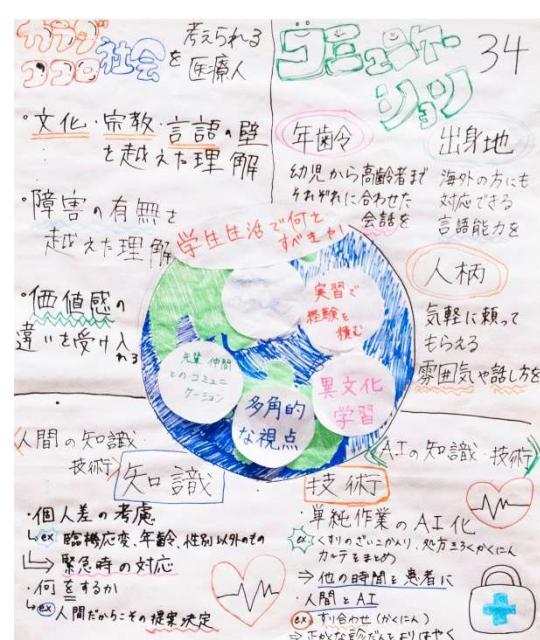
## 大グループ A グループ 5 (投票数 26)



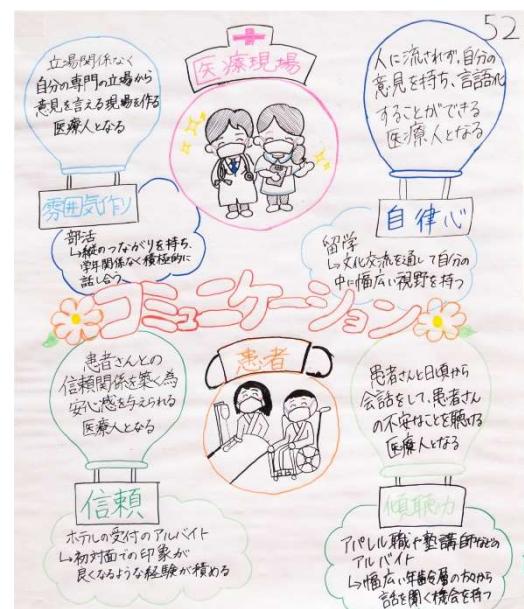
## 大グループC グループ38(投票数43)



## 大グループB グループ34(投票数28)



## 大グループ D グループ 52 (投票数 24)



### (3) 成果発表会 当日風景



## 12. 新入生合同研修委員会の活動について

### (1) 準備・実施スケジュール

2024年度 新入生合同研修 準備スケジュール

担当	内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	委員会開催スケジュール		●	●	●	●	●	●	●
委員会審議事項	合同研修 開催形式等の概要の確定		➡						
委員会審議事項	在学生・卒業生メッセージ、グループ討議の内容、講演者の確定		➡	➡					
委員会審議事項	グループ討議のチューター教員の人数、役割、従事時間の確定		➡	➡					
委員会審議事項	新入生・チューター向け説明内容の確定・Zoom説明会の実施				➡	➡	3月中旬（オンライン開催後youtube）		
委員会審議事項	合同研修 最終確認						➡	➡	
委員会審議事項	合同研修 報告書の承認							➡	
主幹事務	執行経費に関する決裁伺の起案		➡	➡					
各学部事務	チューター教員の選出依頼・自己紹介文の作成依頼（※1）			チューター教員選出 締め切り1月末	➡	➡	自己紹介データ 2/28締め切り		
主幹事務	チューター教員、自己紹介文の取り纏め				➡				
支援センター	卒業生・在学生へのビデオメッセージ依頼		➡	➡	➡	➡	ビデオメッセージ 2/28締め切り		
主幹事務	学長動画メッセージ依頼				➡		ビデオメッセージ 4月中旬撮影		
支援センター・各学部事務	講演・実技の依頼		➡	➡	➡	➡	配布資料・略歴 3/31締め切り		
各学部事務	当日の配布資料、筆記用具等の準備・作成				➡	➡	➡		
支援センター・各学部事務	オリエンテーション説明用簡易スライド作成				➡	➡	3/28完成 4/1チューターにメール配信 新入生はオリ時記付		
支援センター・各学部事務	合同研修当日配布用 説明資料作成※2				➡	➡	➡	4/15完成・印刷	
主幹事務・各学部事務	新入生・チューター名簿・グループの割り振り（・自己紹介用PPフォーマット）配信						4月15～17日頃 チューター教員・学生記録		
支援センター	新入生オリエンテーション 新入生への説明（・通信テストの実施）						4月上旬		
全員	本番 2024年4月26日（金）								★
支援センター・各学部事務	報告書作成							➡	

確認

- ※ 学生への配付物の確認要記載事項：施設の地図、避難経路、チューターの紹介、グループ分け名簿他
  1. 各学部新入生オリエンテーション時に簡易版資料を配付、2. 4月中旬にグループ分けをユニア配信、3. 当日説明資料を配付

## (2) 新入生合同研修委員会 開催状況

### 第1回委員会

日時：2023年11月9日(木)10:00～11:00  
場所：中会議室 ※zoom併用  
議事：  
1.2024年度新入生合同研修委員会 委員長・委員選出について  
2.新入生合同研修の開催案について  
3.新入生合同研修準備スケジュールについて  
4.チューター教員、卒業生・在学生メッセージ、講演者の検討

### 第2回委員会

日時：12月14日(木)10:00～11:00  
場所：中会議室 ※zoom併用  
議事：  
1.研修準備スケジュール、当日スケジュールの確認  
2.チューター教員の選出、卒業生・在学生の選出  
3.講演および実技の検討  
4.グループ討議の内容検討

### 第3回委員会

日時：2024年1月22日(月)13:00～14:00  
場所：中会議室 ※zoom併用  
議事：  
1.研修当日・準備スケジュールの確認  
2.チューター教員の選出状況について  
3.在学生・卒業生メッセージ受取りについて  
4.講演および実技について  
5.グループ討議の内容検討  
6.次回以降の委員会開催日時について

### 第4回委員会

日時：2月20日(火)11:00～12:00  
場所：講義室2 ※zoom併用  
議事：  
1.研修準備・当日スケジュールの確認  
2.在学生・卒業生メッセージおよびチューター教員自己紹介スライド  
3.成果物発表時の投票の方法についての検討  
4.講演および実技の検討  
5.チューター教員への業務説明会・配布資料について  
6.学長へのビデオメッセージ依頼について  
7.新入生オリエンテーション時の配布資料作成について

### 第5回委員会

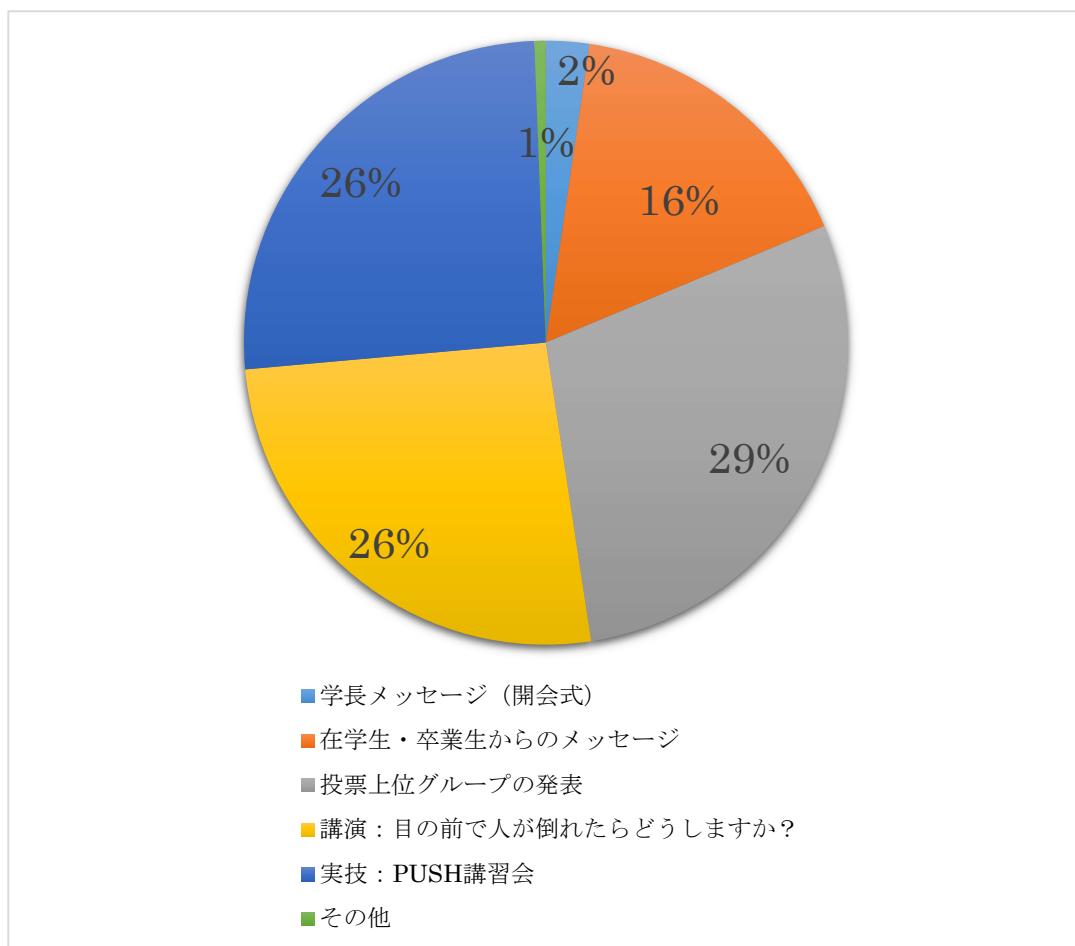
日時：3月26日(火)11:00～12:00  
場所：中会議室 ※zoom併用  
議事：  
1.研修準備・当日スケジュールの確認  
2.講演・実技実施についての補足  
3.新入生オリエンテーション時配布資料について  
4.弁当の選定・チューター教員の昼食会場について  
5.チューター教員自己紹介スライド一覧5  
6.サブモニターの設置および写真撮影について  
7.留年生への対応について

(3) 新入生合同研修委員会 委員一覧

No.	所属／役職	名前	備考
1	看護学学生生活支援センター長	久保田 正和	委員長
2	医学学生生活支援センター長	金沢 徹文	副委員長
3	薬学学生生活支援センター長	浦田 秀仁	副委員長
4	医学教育センター長	中野 隆史	
5	薬学教育センター長	永井 純也	
6	看護学教育センター長	鈴木 久美	
7	医学部 専門教授	境 晶子	
8	保健管理室 講師	澤村 律子	
9	医学部 講師	谷口 高平	
10	薬学部 教授	岩永 一範	
11	薬学部 教授	芝野 真喜雄	
12	薬学部 専門教授	角山 香織	
13	看護学部 教授	池西 悅子	
14	看護学部 講師	間中 麻衣子	
15	看護学部 助教	勝山 あづさ	
16	看護学部 助教	堀池 諒	
17	学務部医学事務課 課長補佐	上久保 純	
18	薬学学務部 次長	前田 将昭	
19	学務部看護学事務課 課長	川端 由夏	

### I3. 新入生アンケート結果(選択：回答数 316)

(I-1) プログラムのうち、印象に残った内容は何ですか？（選択）※複数選択可



(I-2) (I-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。（自由記述）

回答数：255（以下重複意見等は削除）

#### 学長メッセージ（開会式）

医療系学生としての自覚を持つことが出来たから。

将来のイメージが鮮明になった。

#### 在学生・卒業生からのメッセージ

上級生や実際に働く方の話を自分に置き換えて聞けていい時間になったと思ったから。

実際に卒業生のお話を聞いて自分も先輩みたいになろうとやる気が出たから。

実際に働いている人の職場の雰囲気や、職歴がわかって参考になったから。

病院薬剤師として働いている実際の映像がみれたから。

在学生、卒業生からのメッセージは、すごく凝られていてとても印象に残りました。

在学生からのメッセージは面白さもあってみてて大学の良さが伝わったからです。

在学生、卒業生の声を直接きける機会が貴重だからです。

### **在校生の動画がユニークだった**

在学生の方からのメッセージを聞けたことにより、テスト期間の雰囲気や過ごし方・日常生活のスケジュールなど気になっていたことがなんとなくわかったから。

### **投票上位グループの発表**

どうまとめればより良いものになったかが分かったから。

グループ独特なアイデアを聞くのが楽しかった。

自分たちのグループで出なかった意見が聞けたり、ポスターのアイデアが参考になった  
どのグループも趣向を凝らしたポスターを作っていて面白かった。登壇していたグループ以外にもたくさん興味深いポスターがあったので投票の時から楽しかったです。

同じく医療に将来携わる同学年の意見を聞くことができて、良い刺激になったから。

それぞれの班の考え方と私たちの班との違いが分かり、また、そのまとめ方や注目を集めための工夫などして良かった。

自分にはない発想や考え方を聞いてとても興味深かった。可能であれば上位班のポスターを共有してほしいです。

選ばれた班のポスターのクオリティが高かったから

### **講演**

心配蘇生の方法を思い出すことができ、学校や最寄駅、バイト先のどこにAEDがあるか見てみるきっかけになったから。

人命の尊さについて改めて実感できたから。

実際人が倒れた時にどうするかよくわかったし、正しい行動をする自信がついた"

実際に突然に倒れて亡くなってしまった方のエピソードが衝撃的で、目の前でそういうことが本当にあったときに自分が助けてあげられるようにならないといけないと思ったから。

実際に人が倒れた場面を想像してみんなで協力して心臓マッサージやAEDの使用の練習ができてとてもためになったから。

実際に亡くなった人のことやそれによって助かった人について知り、私が倒れている人を見つけたときに動こうという気持ちが強くなった。"

AEDがもしあったら助かった命があることやAEDに残された音声に感動したから

### **PUSH 講習会**

実際の順序で練習できて良かったから。

実技をしたことで、医療人になるということを再確認出来たから。

緊急事態が起きた場合にどう対処すれば良いかの対応が体験で理解することができたから。

心臓マッサージのとき、思っていたよりも力強く押さなければならないことがわかったから。

胸骨圧迫などの救急措置を体系的に学ぶことができたため。

いつ目の前で人が倒れるかわからないので当事者意識をもつことができた。

実際に人が倒れた時どう行動するべきか知りたかったので、この講演はとても興味深かった

中学生の時に一度講演を受けたことがあったが、そのような場面に遭遇することなく、忘れてしまっていたが、この講演と実技で復習することができ、自信につながったから。

骨圧迫や AED の使い方を学び、実際に体験することで自分がする立場になった時に、慌てず適切な行動ができるようになったと思うのでとても良かったと思う。

#### その他

学部の違う人たちと話し合って、自分たちとは全く患者と向き合う方針が異なっていたことを知れたから。

自分と違う学部の人との交流ができたから

薬学部とはなかなか交流がなく貴重な時間となったから。

普段は関わることの無い看護学部、薬学部の学生と力を合わせる機会はとても貴重であり、楽しかったから。

良き医療人になるための多様な意見を聞くことができたから。

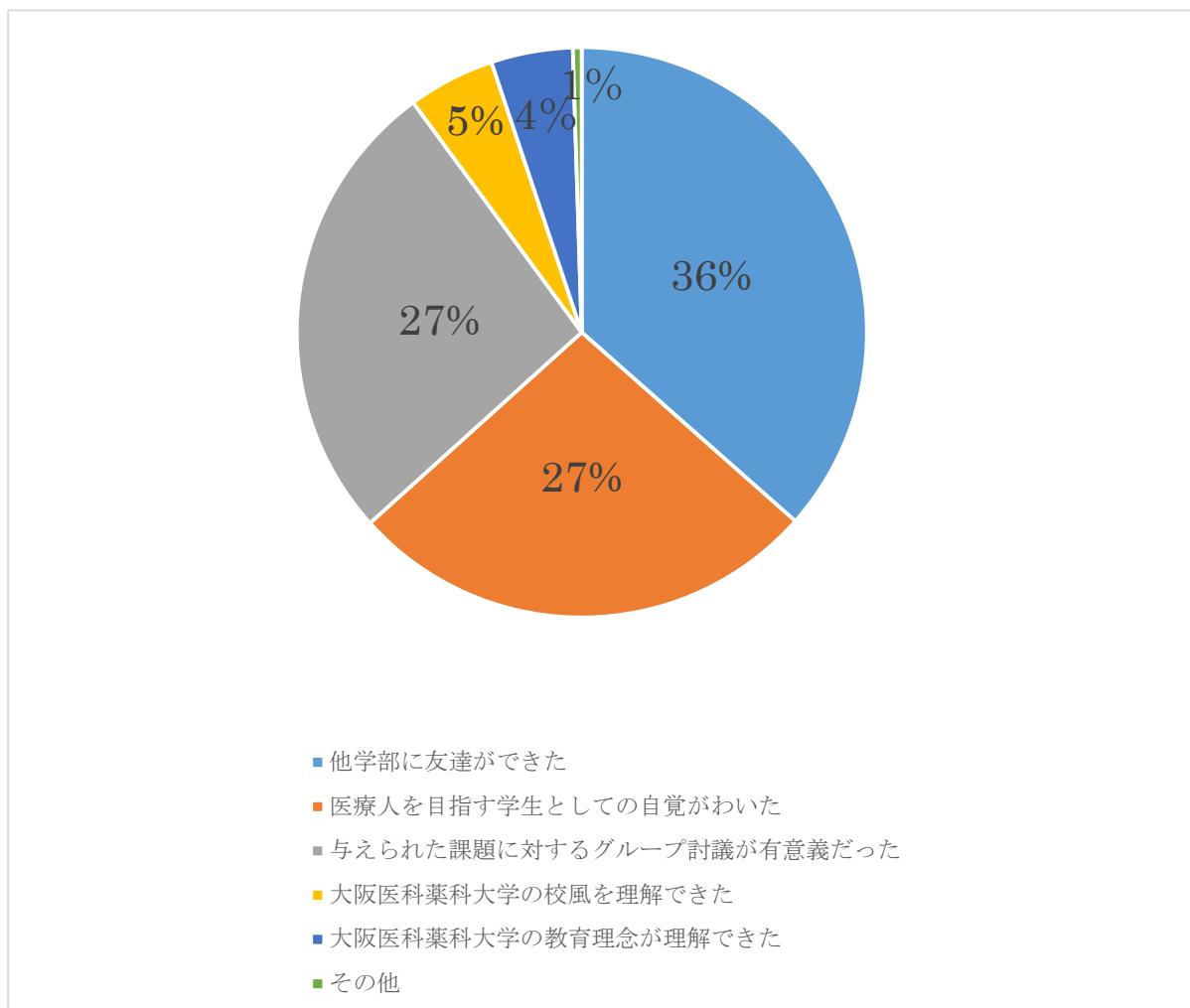
濃かった

初めましての人ばかりでキャンパスも学部も違う人たちばかりのグループだったけど仲良くなれたし、それが思っていることを共有できて協力して楽しかった。

みんなで楽しく活動だきたから

それぞれの学部の良さがでていたところ

(2-1) プログラムを受講して良かったことは何ですか？（選択） ※複数選択可



(2-2) (2-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。（自由記述）

回答数：246（以下重複意見等は削除）

他学部に友達が出来た

他学部と交流できた

薬学の方はキャンパスも違い関わることも少ないと想い、貴重な機会だなと思うからです。

同じように医療の道に進もうとしている人と一緒に時間を過ごすことで意識が高まったと感じたからです。

なかなか他学部と交流する機会が他にないから

医学部、看護学部には全く友達がいなかったので今回知り合えてとても良かった

薬学部の人とはキャンパスが離れていて関わる機会が少なかったから。

他学部に友達ができることで、他学部が今何を勉強しているかなどを気軽に聞くことができるからです。

一つの目標に向かってワークを進めたことでコミュニケーションが円滑に行うことができた。同

じ大学の同期として交流できたのが良かったから。

他学部に友達ができたことは今回の合同研修で1番よかったことだと思っています。普段は薬学部しかいないキャンパスで過ごしているのでどうしても医学部や看護学部の人との関わりが少ないですが、今回の研修終了後に同じグループの人と連絡先を交換できて今も卒業後も輪が広がったような気がします。

#### 医療人を目指す学生としての自覚がわいた

どういった医療人になりたいか再度確認することができたから。

チームで一つの目標のための努力を学ぶことができたから。

目指すべき医療人はどういう人なのかということについてしっかり考えることが出来たから今まで医療人として大事なことはわかっていたが、それらを得るために大学生活をどう過ごすかまで結びつけていなかったので、話し合いでそこまで考える機会を得たのはとても良かった。

話し合いをして目標とする医療人像が自分の中で言語化され、明確になったと感じました。他学部の人と良き医療人について考えることで様々な視点から良き医療人とはどんな人か考えることができ、将来自分が薬剤師になった時にこんな薬剤師になりたいという目標が明確になったから。

自分が医療関係者であることを自覚できた。

心配蘇生の仕方などを学ぶことができ、医療人として今後生きていくことを実感できた。

#### 与えられた課題に対するグループ討議が有意義だった

グループディスカッションの時に、医学部生と看護学部生は「傾聴力」について色々話してくれ、とても興味深かったから。

様々な職を目指す人の意見を聞くことができて自分の視野が広がった気がするから。

自分では思いつかないようなアイデアを聞けたり、グループ発表を頑張った結果3位を取れて、喜びを分かち合えたから。

初めて話した人とたくさんコミュニケーションを取れたことが良かった。各職業の意見を知ることができると良い機会だった。

この学習の醍醐味である、同じく医療人を志す者とその同じ意見や、違う職種ゆえの異なる意見に触れることができたため。

やはり初対面ということがあり、初めはぎこちなかったが、ひとつの課題に対してチームみんなで意見交換し、共感し合ったり、アドバイスを送りあったりして学びも多く、時には笑いながら作業でき、結果は良くなかったが、自分たちが満足できる答えを出すことができてポスターも作れたため、有意義な時間を過ごせたと感じたから。

人それぞれ全然違う視点で物事を見ていて、とてもいいと感じました。

チーム医療の話をたくさん聞いてきて、実際に3学部で討論をする中でそれぞれの学部の人たちの意見を知ることができたから

他学部の人と話し合いをする中で、みんなそれぞれの役割で患者さんのために何ができるかを真剣に考えているのが印象的だったから。

誰の意見も否定せずに、かつより良いポスターを作るために相談し合えたから。"

グループ討議では想像以上に深く良き医療人としての討論やポスター作成ができた。足りないところは補い合い、必要のない部分は取り除くなど、メンバーみんながしっかりとした意見を出し合えたおかげで、グループの絆も完全に深まったと感じた。他学部との交流はなかなかない機会だと思うので貴重に感じた。

自分の意見を伝えて、他の学部の人の意見も聞いて、同じ学年で始まったばかりなのにこんなにみんなの意識が高いのかを感じて、自分も頑張らねばと感化されたから。

#### 大阪医科大学の校風を理解できた

他の学部の雰囲気が分かった

いつも通っているキャンパスには薬学生しかいないため、医学部の人や看護学部の人と関わることができるて有意義な時間を過ごせたし、それぞれの職の視点から見た医療について知ることが出来てよかったですから。

他学部の人と交流して授業の様子や普段の様子を聞いて校風がわかったから

他学部と交流する機会はキャンパスが離れていること也有って、なかなかなかったのでよかったです。また、いろいろな学部からの良き医療人としての姿勢を共有し認識できてよかったです。

生徒の自主性を重視するこの大学の校風を感じたから

先輩たちの動画を見て大阪医科大学の校風を知ることが出来たから。"

他の学部に対して偏見があったが全くなくなったから。どこの学部も堅苦しいイメージだったがみんなフレンドリーだった。

#### 大阪医科大学の教育理念が理解できた

自分と同じ学部の学生だけでは、どうしても「良き医療人」についての考えが偏ってしまうが、様々な学部が混ざっていることで、自分とは違う視点から見る「医療人」の像が見えてきて面白かった。

良き医療人となるために必要なことを再確認できたから。

これからはチーム医療の時代なのでたくさんの人と関わりを持つことになると思うので、今から初対面の人とも意見を交換できる場を経験することが出来て良かったと思うからです。

これから立派な医療人となるために大学生活どう過ごせば良いか、少し見通しがついたからです。初対面の人と一から関係性を構築し共同作業をする練習になり、非常に有意義だった。どのような医療人になりたいか、なんとなくのイメージだったものを言語化してはっきりと目標をたてられたのもよかったです。

医療人としてまず、チームワークをとるために、どのように話し合いをしていけば良いのかを深く考える機会になったから。

これから時代の変化に対応し、質の高い医療を提供できる医療人になるために、多職種で連携していくことの重要性を理解できた。

多職種連携というのがどこか他人事だったが、薬学部と看護学部のみんなとグループ討議するこ

とでなんとなくイメージがわいた。コミュニケーションを上手くとれるようになりたいとより思った。

以前は多職種連携やチーム医療はイメージしにくかったが、プログラムを通して医師、薬剤師、看護師が連携して患者にアプローチする様子を掴むことが出来るようになった。

これからの時代の変化に対応し、質の高い医療を提供できる医療人になるために、多職種で連携していくことの重要性を理解できた。"

今回の研修を通して改めて大阪医科大学の校風や教育理念を理解することができました。最大の魅力であると感じている三学部があるという点は研修中も感じました。"

普段人とあんなに真剣に話し合うことはないので、有意義だと思った。また、理想の医療人について話し合うことでふわっとしていたものが少し明確になり、自覚がわいた。本当のものとは全然異なるが、医療チームの話し合いのようで大阪医科大学はチーム医療を進めていける医療人の育成に取り組んでいることが感じられた。

### その他

医療の視野が広がったから

関わる機会のない医学部、看護学部の人たちと休憩時間などで、趣味や好きなことなどの話を沢山出来たからです。

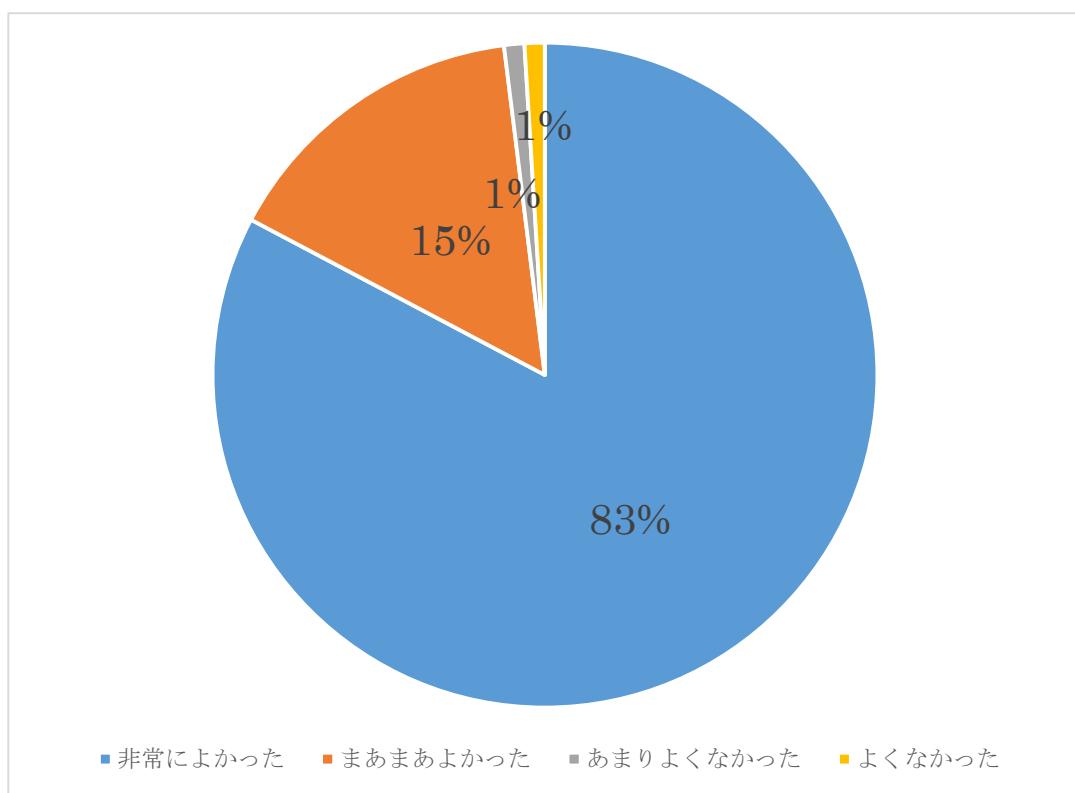
あまり接点のない他学部の人と話せて楽しかった。また、実際に他学部の人と接して、医療は医者だけでするものではないという実感がより湧いた

将来薬剤師、看護師を志す学生と交流できて、医療をよりよくしていきたいという思いがひしひしと伝わり、刺激をうけたため。

みんな真剣に取り組んでて刺激的だった。

6年後のビジョンがまだはっきりとしてない中で、医療人としての自覚を持つて良い機会だった  
普段は同じ学部の人ばかりでやはり同じような意見が多くなってしまうけど他学部との交流でその人たちの意見や他学部から見た薬剤師について知ることができた。

(3-1)対面での開催についてお聞きします。(選択)



(3-2)(3-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答：246（以下重複意見等は削除）

先輩方はズームでやって、気まずいこともあったと話していましたが、対面だから一度もそのように感じなかったからです。

オンラインより対面の方が発言しやすく、深く話せるため

顔を見て話せる方がお互いの気持ちが伝わりやすく、コミュニケーションをとるのが楽しいから。  
お互いの存在を感じながら、取り組めたから。

同じ学部以外の人とも喋ることができたから

目を見て話すことができたので自分の意見を言いやすかった。

お互いに顔を合わせて話せたから。

実際に直接グループで話し合うことで仲が深まったから。

対面の方が人と話しやすいからです。

対面で話することでその場の雰囲気がわかり話しやすかったから

話し合いの時ジェスチャーめっちゃ使えた。

実際に対面で顔を合わせながら討論することで、相手が何を一番伝えたいのかがよくわかるので、「この人は私と同じ部分を良き医療人の特徴と考えているんだな」とか、「この人の考え方にはなかったな」ということが、非常に伝わりやすかったから。

看護学部は一人だったが積極的に話しかけてくれたおかげで疎外感は一切なく楽しくプログラム

を行うことができたから

表情や声色で伝わる感情を大切にしたいから。

実際に合って話することで、その人の熱量や意思を肌で感じることができ、この人たちと働けるよう頑張ろうとやる気につながったから。

オンライン上では、やはり気まづさが出てしまい、相手の表情も読み取りにくいが、対面だと、些細なことでも笑いあったり、コミュニケーションが多く取れると、実際感じたから。

普段関わることの無い他学部の子と関わることが出来たから、薬学部でも関わることのなかった人と初めて絡むことが出来た。

自分は人見知りなのでオンラインだと余計に話さなくなり満足できなかつたと思うから

対面での開催の方がラグもなく意見を交換し合うことができるから

個人的には少人数の方が意見しやすいし、ポスターを完成させるという共通の課題があることでより喋りやすくなつて良かったです。後は言葉だけじゃなくて表情も見れるので対面での研修で良かったなと思います。

ご飯と一緒に食べたり休憩中に話したりすることで他学部の生徒と交流できてよかったです。

初対面の人とどう話せば良いか学べたからです。

非常に良かったです。お話しするのが楽しかったからです。

コミュ障なのであまり期待してなかつたが意外と楽しかったから

対面でグループワークをすることで、参加している実感が湧きやすかつたから。

実際に対峙して話すのとオンラインとでは全然違うと思うし、他学部の人とも仲良くなれた。

実際に体験できたり皆で協力してポスター作りに励むことができたからです。

近い距離で直接話すことができて、心の距離も縮んだ気がしたから。

より仲良くなれたりし、医学部と看護学部の仲間意識が強まつた。

リモートとかではなく、実際に会つて議論をすることで、円滑に話し合いが進んだと思うし、一緒にポスターを作成することで一体感があつたと思います。

実際に会つて他学部の子とひとつのことについて議論でき、また、休み時間などにも親交を深めることができたから

グループそれぞれで考えているときの会場全体の空気感がよかつたのでそれを味わえるのは対面だけだと思った。

救命救助の講習はためになつたが、バーチャルでも可能。対面でのグループワークは、グループワークに非協力的な学生とは分かり合えないのだと再認識したため不要だったから。バーチャルの方が雑談できないからグループワークに集中できていよいと思いました。

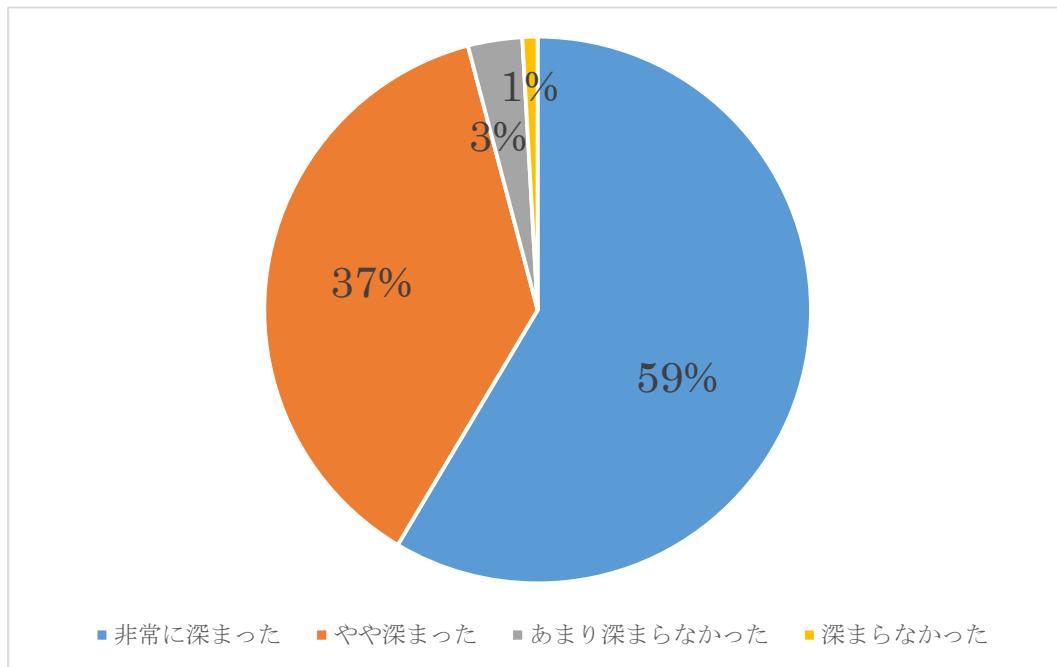
実際に生徒、先生みんなが集まるという普段なかなかできないような機会なのでシンプルに興味が湧いた。また、対面で開催することによってグループ活動や実技の集中力が高まつた。

遠くて大変だったから。

リモートだとポスターを作る時みたいにわちゃわちゃできなかつたから

オンライン等ではクロストークがしにくいつか対面では次々に意見が出ても聞きやすい。そのため対面だからこそ、議論が白熱したから。

(4-1) 参加前と比べて、参加した後の方が、自分が入学した学部で学ぶべきことの理解が深まりましたか。※選択



(4-2)(4-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答数：222（以下重複意見等は削除）

他学部と交流し、客観的に自分の職種を見つめ直すことができたから。

他学部からの視点が全然違って、おもしろかったが、話し合う中でそれが納得した終着点を見出す大変さも感じた。

良き医療人の討論を通して自分には何が出来てないのかがわかったから

それぞれの職種が担う仕事が理解できたため自分が目指すべき目標も以前よりはっきりとしたから。

医者としてすることというより、医療人としてすることを学びました。

具体的にどのようなことを学ぶべきかについて考えることができたから。

自分の専門分野をしっかり勉強することが大事だと思ったから

他学部との交流で各学部の心構えが聞けた。

他の学部にはない、薬剤師にしかできない知識をより深めようと思いました。

各職業の仕事を把握した上で、医療現場での看護師の立ち位置を認識することができたから。

他学部の学生と意見を交換する中で、どの学部を選んだかによってそれぞれの考える良き医療人の特徴が少しづつ異なっていることに気が付いた。また、ほかの人に自分の考える良き医療人像を伝える機会があったことで、自分の中の考え方を見直すきっかけにもなり、それが入学した学部で学ぶべきことの理解にもつながったと考える。

他の学部と話すことでの自分の学部の良い点を再発見できたから。

看護学部で学ぶべきことを理解していたつもりではあったが、参加した後、看護学部と薬学

部、看護学部と医学部との共通点をチーム内で考えた結果、新たな発見があり、さらにレベルアップした看護への学びの理解を深めることができたから。

様々な学部の意見も聞けたことにより看護学部では出ないような意見が多かった  
これから自分たちがどんな風に成長したいかの基盤が固まったからです。

医療従事者としての多面的なものの見方を実践できたから。

看護学生、薬学生からの医学の捉え方をしたため。

同じグループに同じ学部の人はいなかったため、多職種連携や医看薬共通の学ぶべきことは理解が深まったが、”医学部”で学ぶべきことの理解が深まったかは疑問。

実技などを通して、より人を救いたいという気持ちが強くなりました！

看護師には看護師にしかできないことがたくさんあると学べたから。

他学部からみた薬学部への期待を把握する事ができ、自身が薬学部で学ぶ内容を理解できた。  
他学部と共通する面、しない面をしっかり理解できたから

グループ内で看護学部が1人だったので看護学部としての意見を発言する必要があり、そのおかげでより看護学部の学びを深めることができた。

表面的なことを話し合っただけで理解が深まったわけではない

医師として医療現場に出た時にどのような対応、思考をすべきかが以前より具体的に分かり、そのために6年間で学ぶべきことを考えることが出来た。

医学の専門知識をちゃんと身につけようと思った。グループに医学部が1人だったので、尚更そう思った。

参加前はなんとなく薬剤師になれたらそれでいいやって感じだったのですが、こんな薬剤師になってこんなふうにしたい！という具体的な目標ができたからです。

自分の意見を合っている間違っている関係なく発言することやチームになったときに薬の専門職として提案することの大切さをグループ討議を通して感じました。薬学部で学ぶことの大切さを改めて知るとともに、理解が深まったと思います。

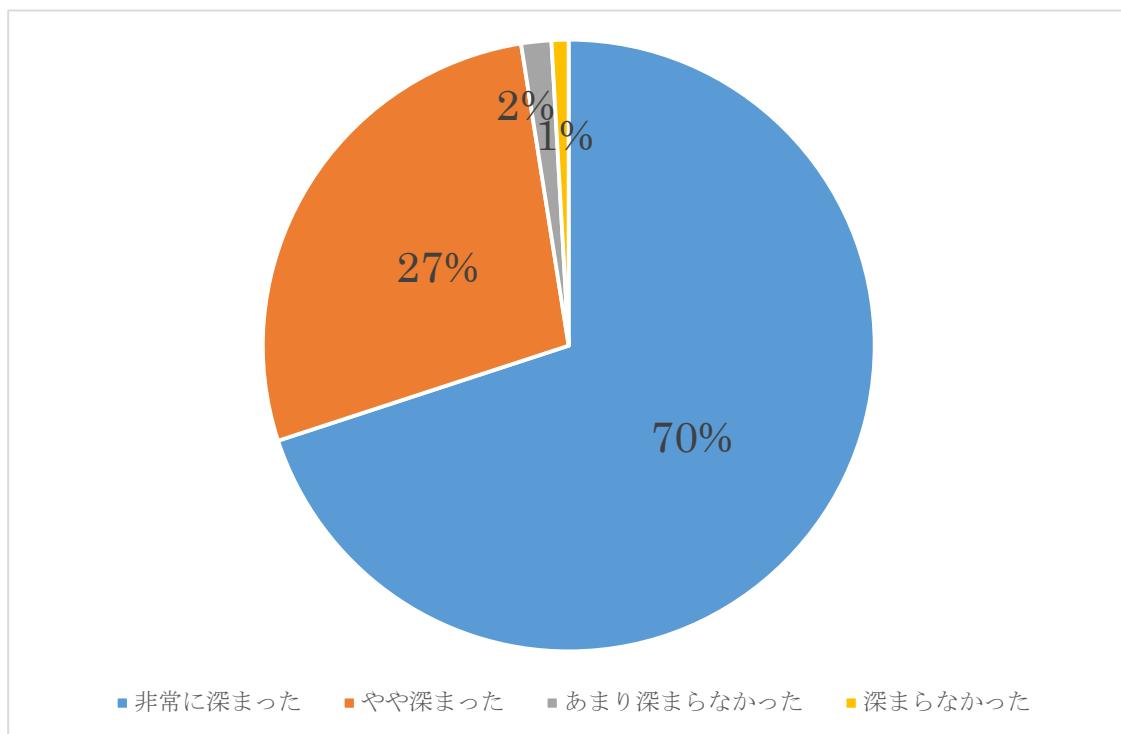
自分の在籍している学部に誇りを持ついい機会になった。

将来医療現場に出たとき、医師や看護師と意見を遠慮なく言えるよう、お互いをカバーできりよう<sup>1</sup>に知識を増やすべきだなと思った

参加して、他学部の意見を聞いたことで、色んな視点で物事を見ることができるとわかった。私は在宅医療の貢献をしたい。そのために、薬剤師としてのプロフェッショナルな知識や行動、患者さんに寄り添うことを薬学部の勉強で学んでいきたい。しかし、その勉強だけでは自分の夢である在宅医療の薬剤師として貢献するのに教養が足りず、自分で介護関係の勉強や在宅医療チームについて勉強することが必要だと思った。合同研修以来、介護保険制度とは何か、介護保険における段階、介護施設問題、過疎地域での通院問題、在宅医療での薬剤師の活躍不足など色々勉強する機会ができた。その知識で薬学部で出た課題に取り組むこともできた。自分で学ぶべき内容を理解するきっかけにもなった。

学部によって大切にするところや目指す場所が違うところもあれば、三学部共通の目標もあるとしれてよかったです。

(5-1) 参加前と比べて、参加した後の方が、良き医療人となるために必要なことの理解が深まりましたか。※選択



(5-2)(5-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答：222（以下重複意見等は削除）

他の人と話す中で私にはない新しい考えを知れたから。

患者さん第一を中心に、三学部の意見を踏襲したものが自分の中でまとまった。

医師と看護師、薬剤師のそれぞれの立場や意見をお互いに尊重し合うことが大切だと改めて感じた。

自分の中にある良き医療人像が、ほかの人と意見を交換したことによって、より一層具体化されたことで、必要なことへの理解が深まった。

多職種連携の重要性を身に染みて感じられたから。

周りの志が高かったから

たくさん人の意見を聞いて、自分と違った考えを知ることが出来て、それを取り入れた上でもう1回自分が思う良い医療人について考えることができたからです。

長い時間を使って、良き医療人についてグループワークすることで、「私なりの良き医療人」などの個人が思う良き医療人とみんなと考えが一致する良き医療人を更に理解することができた。

よき医療人になるためにこの大学生活でどんな知恵をつけ、どんな経験を積んだらいいのかがより分かった気がしたからです。

コミュニケーションの重要性を知った。また、双方がコミュニケーションを積極的に取ろうと意

識しなければ円滑にコミュニケーションを取ることが難しいとも感じた。

人間性の重要性を学べたため

他の学部が何を目標にしているかが分かったらから

薬剤師は、提案力と薬の知識が必要だと言う結論に至ったから。

参加前は曖昧考えしかなかったが、参加後はどうして行けば良い医療人に慣れるか分かったから。

班で良き医療人となるために必要なことについてたくさんの意見を交換しあえたから。

いろんな人の意見やグループとしての意見を聞き、自身の医療人としての意識の変化が生じたように感じます。

他学部の人や同じ学部の人の考え方聞くことで良き医療人とはどういう人材のことか改めて深く考えるきっかけになったから。

グループでの活動や代表グループの前での発表で、患者さんの思いや症状に耳を傾けることはもちろんのこと、同じチームの他職種の人の意見にも耳を傾けることが大切だと思いました。

医療人マインドを育成できたと思う。

自分に足りない部分を再確認でき、大学でやるべき事が明確になったから。

グループワークを通じて、信頼されることが一番大事であると理解し、認識しました。

多職種連携の授業で色々な先生方の講義の内容と同じため良き医療人になるために必要なことへの理解は変わらなかった。

学部内で深く学ぶことも必要だが、自分が目指す良い医療人になるために、教養を身につけたり、違う視点で物事を見るために薬学とは違う専門分野も自分で勉強するべきことが分かった。

心臓麻痺の動画を見て、突然死くなってしまうこともあるのかと思うと、ほんの数秒の戸惑いが生死を分けるので、瞬間的に何を優先するのかを選択する力が良き医療人になるために必要なのかと考えられた。

討議を重ねるうちに、自分では考えなかった考えも出てきたので、良き医療人となるために必要なことの理解が深まった。

自分だけでは考えられなかったことも見つけられた。

ほかの人の話の中で、同じ医療人目線、患者目線の良き医療人について考えることができ、良き医療人に対する視野が広がったから。

他の職業の人はその人なりの意見があるし自分からすると意外な味方だなど感じることもあったので色々な人の意見を取り入れて、自分の意見もしっかり主張することが大切だと思った。

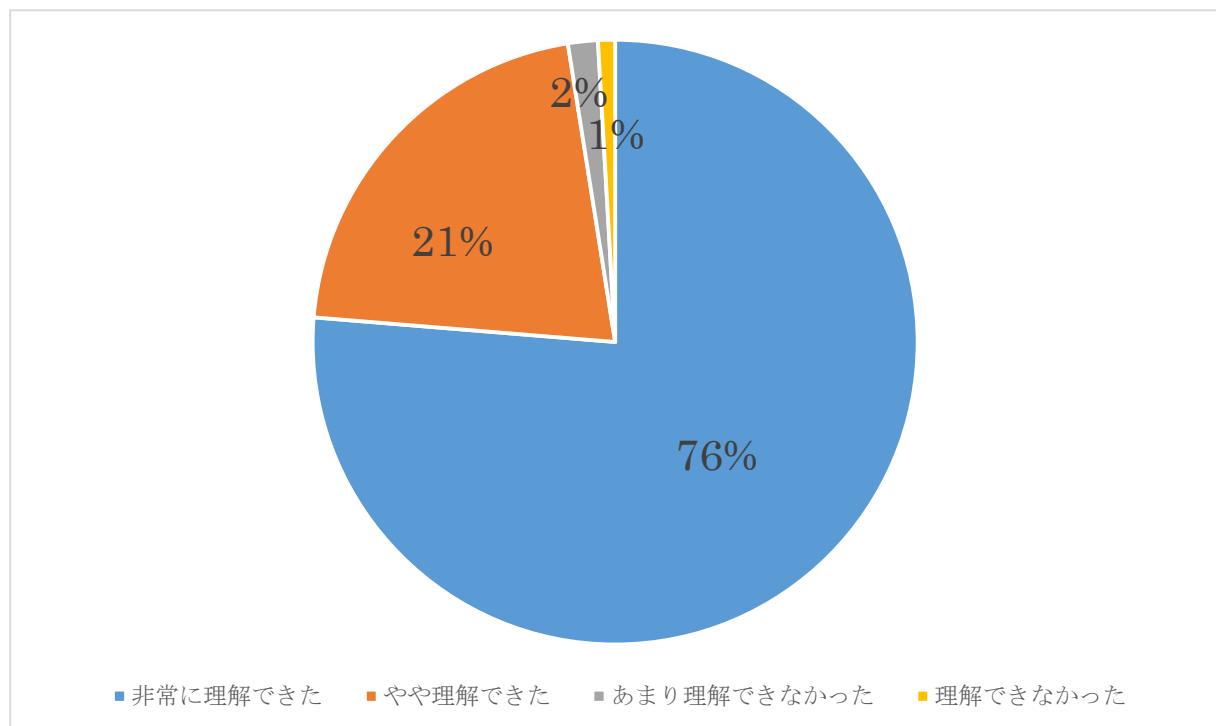
他職種のことを知ることができ、連携に必要なことなどが具体的にイメージできたから

患者を中心に考えることの大切さが理解できた。

チーム医療について詳しく議論したことでの姿を改めて考えることが出来た。

他学部の方の考え方や、グループ発表を通してより多くの人が考える良き医療人像について学べたから

(6-1) 参加前と比べて、参加した後の方が、多職種連携の重要性を理解できましたか。※選択



(6-2)(6-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答：218（以下重複意見等は削除）

ポスターを作成するには、みんなが意見を出し合って共有する必要があり、そのためにはコミュニケーションを積極的にとることやお互いを理解する必要があると感じた。また、この事は同じ患者に対して行動する時にも通用すると思ったから。

それぞれの職種が担う仕事や目指していることを話し合ったため、連携することでたくさんの患者さんを助けることができると思ったから。

薬剤師だけだと偏った意見になると改めて実感したから。

3学部が集まると、患者さん第1という考え方は共通していたが、他のところは少しづつ学部によって異なっていたので、お互いの考えを聞くことが大切だと分かったから。

ポスター作成時に実際に書き出して考えることができたから。

他の学部の学生が考える、薬剤師に求める素質みたいなものを、討論の中で聞くことができたので、多職種連携の重要性が今まで以上に理解できた。

患者第一を考えた時に思い浮かぶ業務は莫大で、どれか一つの職種がすべてを担うのは難しいため、独自性を生かして分担することで、安全で質の高い医療を提供できるのだと感じられたから。

参加前も看護学部からの視点だけではなく、医学部や薬学部の立場になって多職種連携の重要性を考えていたが、本当に医師や薬剤師を目指している人の意見を聞くことで、自分の考えたこと

が謝りであったことや新たな発見があったから。

将来薬剤師だけでは何もできないことが分かったから

医師にも知らない分野が数多く存在し、それぞれの専門家がいることで医療が成立していることを改めて理解できたため。

特に看護学部は自分の持たない知識や視点を持っていると感じたため、話し合い連携することが重要だと肌で感じた。

合同研修の前に講義で理解してはいましたが、直接話をしたり、聞いたりすることで多職種連携の重要性が改めて理解できました。

できませんでした。重要性ではなく、医学部と看護学部と薬学部は分かり合えないと、グループワークを通してはっきり分かった。分業の方が大事。

同じ医療の学部としても、必要なこと、持っているものが違うので色々な情報が聞けましたし、今の医療人の方々はこれに近いことをやっているんだと思いました。

今回の講義や話し合いの中で、患者さんを第一に考えた時に、チーム医療で連携を取ることでより正確に適確な情報提供ができると考えたからです。

治療1つを行うことでも多くの職業の人の意見交流があつたりしてそれぞれの専門の知識だけでは解決できないし、それぞれの職業の人が協力すると今回のポスターのように良い作品や意見が出せると実感したからです。

他の授業(多職種連携講座や医工薬連携講座など)の方がよりその重要性を認識できた

自分が思っている以上に様々な考え方があり、どれも正しくて、それはおもに学部ごとに違っていたから今回のような交流があることは大切だと感じたから。

医学部、薬学部、看護学部どの職種が欠けてもいいものだと学ぶことができたから。

職種によって本当に業務が異なり、それぞれの責任の重さや大変さを知れたから。

多職種連携を行うことで、患者様の治療がより適確に行われることやその職業からの視点を共有することで多角的に見ることができるようになることが理解できた。

それぞれの学部ごとの考え方や視点の違いがあることを理解した。臨床ではこの視点の違いがあることを理解し、様々な視点から患者さんにアプローチしていくことで質の高い医療を提供できると考えた。

いくらある特定の職種の知識や経験があり上手く行動できる人であっても、実際の医療現場では多職種の連携が取れないと人の命を救うことは難しい。普段からコミュニケーション能力を高めたり、臨機応変に対応できればより良い医療人となり、また複雑で難しい医療の世界に積極的に進んでいけるような気がした。

AEDの体験でいちばん実感したが、一人で患者を救うことはあまりない。色々な人の援助があって人を助けることが出来る。

本当に驚くような新視点から話してくれるような人もいたから。

患者さんをみる視点が異なり、専門分野も異なる立場だからこそより良い意見を共有し合えると思ったから。

それぞれの観点があるが結局みんなの最終目標は同じでそこにたどり着くまでの過程を話し合うことはとても意味のある事だと感じたから

(7)3 学部合同で行ったことについての感想や、その他意見があればお願ひします。

回答：316（以下重複意見等は削除）

楽しかったです！

また今後 3 学部合同で、zoom ではなく対面のなにかイベントがあると知り合いも増えてお互いのこととも知れて良いのではないかなと思いました。

グループワークが非常に良かった

またこのような機会があればいいなと感じました。

3 学部で活動をする事がほぼないので、他学部の意見も知ることができて前より広い視野で物事を考えられるようになった。初めは看護学部が班の中で 1 人で不安だったけれど、他学部に友達ができて楽しかった。参加して良かったと感じる。

最初は緊張してあまり話せなかったけど、途中からグループ全体で会話できるようになって、初めて会ったとは思えないくらい、協力して活動できた。正直行く前は知らない人ばかりのところに行きたくなかったけど、終わってみれば行ってよかったなと思った。

お弁当別にいらない。

この機会があったことで、普段関わることのない学部と交流を深めることができた。初めて会ったとは思えないほど、チーム全体がとても良い雰囲気で楽しみながら作業を行うことが出来て良い思い出になった。

自分の学部で学ぶことだけでは理解できなかつかもしない、実際の医療現場の出てから、ほかの医療従事者から薬剤師に求められることを、比較的具体的に自分の中で整理することができたいい機会だったと考える。入学直後に行われたことで、今後の勉強のモチベーションにもつながった。

1 回生の時だけではなく、2 回生や 3 回生になった時にも合同研修会を開催してほしいです。

男女比率を合わせてほしい。

普段会うことは厳しいけれど、職種は違えど、誰かを救いたいという同じ意思を持った同級生がいて、この人たちと将来一緒に働くのだと、存在を確認することができたのが大きかったです。また、夢のきっかけや、この大学を選んだ理由、将来何をしたいのかを聞くことができ、モチベーションアップにつながりました。

このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。

私たちのチームは、初めは少しきこちなかったのですが、話し合いを重ねていくうちに仲が深まり、最後には全員とインスタグラムを交換するまで仲良くなりました。正直、合同研修が朝から夕方までありきついかなと思いましたが、時間は一瞬で過ぎ、良い時間を過ごせました。

できればこれっぽっかりじゃ無く、別の 3 学部合同のイベントをやってみたい。

他の学部と交流できてよかったです、こういう機会が一度きりではなく年に一回くらいあって欲しいと思った。特に薬学部はキャンパスが離れていて部活も別で同じ大学にいるのに別の大学みたいで交流が乏しいのでこういう機会があったらいいと思った。

他の大学では医療学部 3 学部が交流することはなかなかないけれど、低学年のうちから交流を行うことで、自分が医療に携わっていく人間だと自覚を持つことができるのでよかったです。

もっと3学部合同での活動を増やして欲しい。

今回、知り合った人と最初で最後だというのはもったいないと思う。

過去には遠征して泊まることがあったと聞いて、それをしてみたかったなと思いました。

1回生の時だけではなく、2回生や3回生になった時にも合同研修会を開催してほしいです。

非常に充実した1日でした。

他の学部は何を学んでいるのかを知ることで、将来の自分の役割や学ぶべきことについて理解が深まり、とても有意義な時間を過ごせました。他学部と関わる機会がこの研修だけだというのが残念です。

頑張っていいポスターを作ろうと司会をしても、結局自分の意見を押し通す人や、趣味の話に脱線する人がいると崩れてしまう。医学部が1人しかいないので、目指す医師像について色々な意見を出そうと頑張っても、他学部とは壁があるようでほとんどの人に無視されて辛かった。他学部との協力がトラウマになっただけだった。このような企画はもうやりたくないです。せめて知識がついた上級生になってからやるべきことだと思います。

この新入生合同研修のみならず、もっと3学部対面での研修を増やすべきだと思いました。そうすると、より多職種連携の理解が深まるのみならず、大阪医科大学の全面的にアピールすることのできるカリキュラムの一つとなると思うからです。医学部、看護学部、薬学部が対面で合同で行う研修が多ければ多いほど、将来の医療にとって、そして大阪医科大学にとってもメリットになると思います。

どのプログラムもとても興味深く、有意義な時間だった。3学部みんなでディスカッションし、ひとつのポスターを作り上げるのはとても楽しかった。心停止が起こった人を見かけた際、他人事として見過ごさず行動できると思う。

1回だけでなく年に2回くらいやりたい

3学部合同で取り組んだこと自体はよかったです、これから会う機会が全くないのが残念だと感じました。医工薬や多職種連携論、教養科目などで、合同研修のメンバーで対面で定期的に取り組めるものがあれば、もっと親しくなるかなと思いました。

楽しかったので、是非続けていって欲しいです。予告で、グループディスカッションとは書いてあるけど親睦会みたいなものだよ～と伝えてくれれば、少し安心かもしません。

今回の集まりが最初で最後とあったが、もっと同学年の人たちと仲を深めたいため、もう2度ほど開催があればいいなと思う。とても楽しく有意義な時間だった。勉強以外にもう少し遊び要素もあれば嬉しい。またお弁当は和食より洋食の方がウケがいいと思う。企画運営してくださりありがとうございました！

3学部というのがとても魅力的でした。友達ができるだけでなく、非常に有意義な話し合いができ楽しかったです。参加させていただけて嬉しかったです。是非来年の新入生も開催してあげてください。

トイレが込みすぎていたので、もう少し対策があればいいなと思いました。"

ワチャワチャできて楽しかったです。

まず、三学部それぞれ色々な考え方をした人達がいてとても新鮮だった。1つ意見を述べるだけでも思考回路が全然違うので、こういう考え方の人もいるのだなと沢山刺激を貰えた。

3 学部合同で行ったことで、薬学の視点以外で医療人としてどうあるべきか他学部の人の意見を聞け、視野を広げることが出来る良い機会だったと思う。また、医療人を目指す学生として、今の自分に足りないこと、そして在学中に取り組まなければならないことを再確認でき自覚が芽生えた。この1回だけでなく数回このような合同研修をしたいなと感じた。

リモートでもいいので同じメンバーでこれからも活動することがあればもう少し仲良くなりやすいと思う。その日限りだと連絡先の交換もやりにくいし、交換しても話す内容が難しく、交換するだけで終わってしまう人が多いと思った。

3 学部がある大阪医科大学ならでは、多職種連携の難しさと大切さを学ぶとても良い機会だった。

もっと3学部合同の授業や、私たち薬学部が本学キャンパスに行ける機会を増やしてほしいと思います。

会場が綺麗ですごかったです。

もう少し長くしたかった。

グループ討論の際、医学部の学生が1人欠席だったにも関わらず、1人でグループの状況を把握し、対処すると同時に医学部の意見をまとめていたことに感動するとともに、自分も同じようになりたいという目標になった。

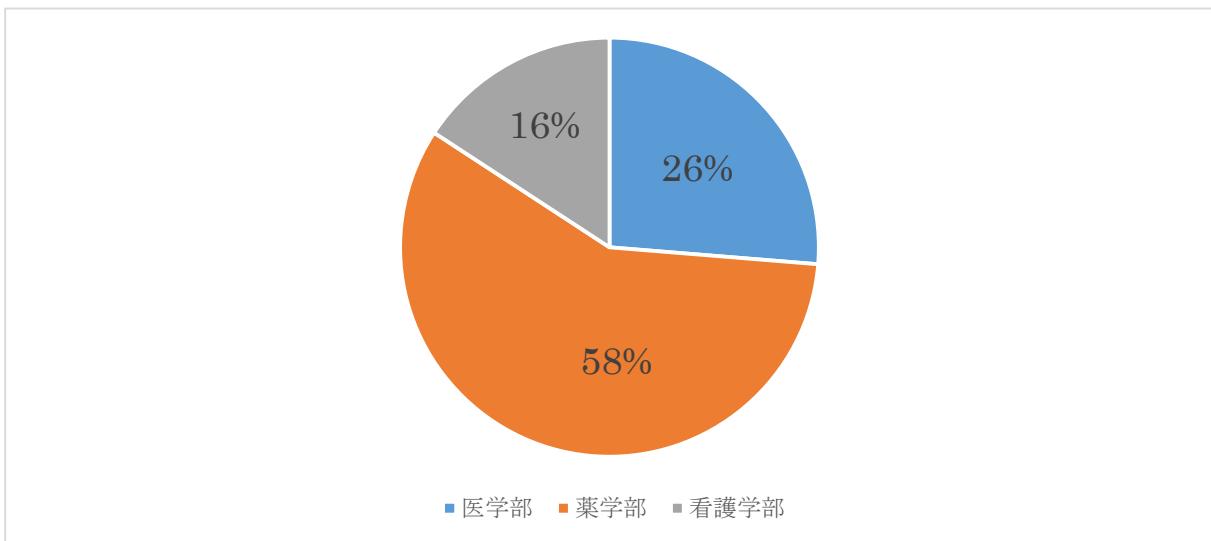
始まる前は知らない人ばかりの交流だし、それ以降あんまり関わることもないからやる気がでなかつたけど、いざ行ってみると仲良くなれたらしいいろいろな意見を聞いて楽しかった。ご飯も一緒に食べることで医療以外の話をしてそれぞれの趣味とかも聞いて面白かった。もっと交流の機会があればいいのにとおもった。

投票の際に、1つのブロックのポスターしか見ることができなかったのが残念でした。全体的にも巻で終わったので、もう少し多くのグループのポスターを見る時間があれば良かったかなと思いました。

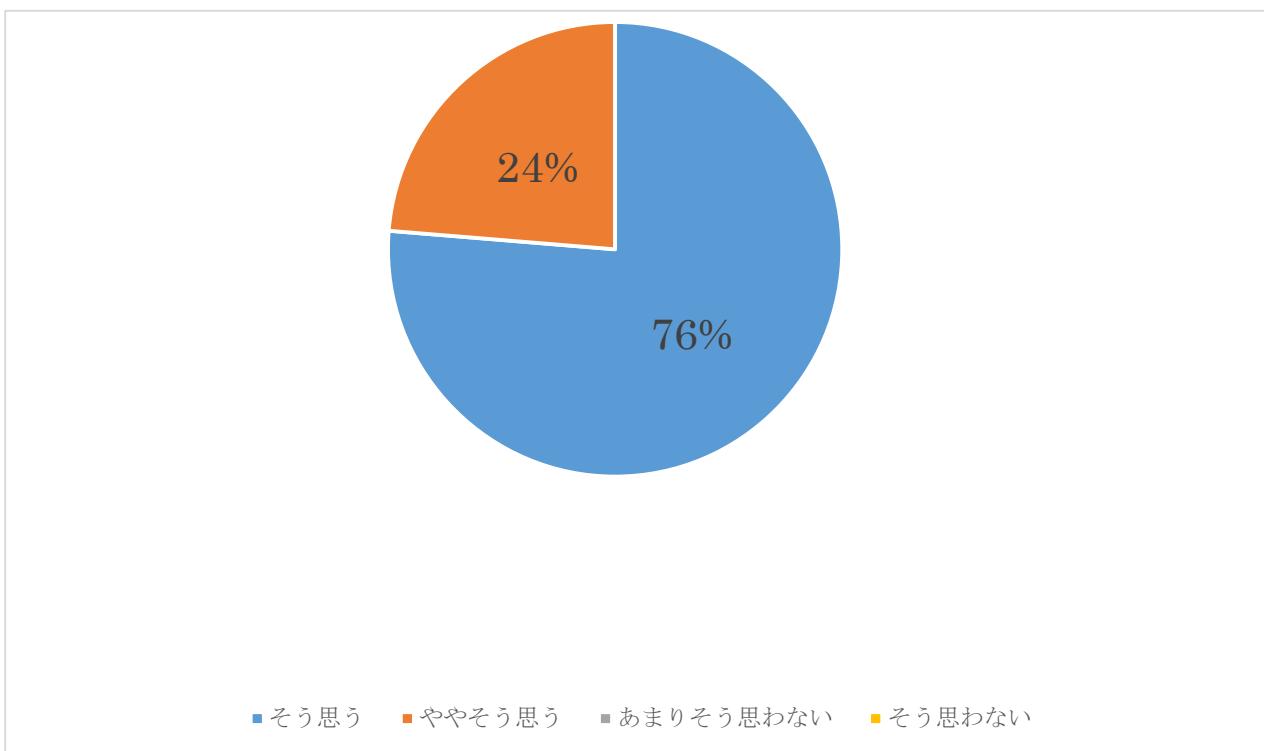
大阪医科大学だからこそできるこの3学部合同の研修はとても内容も濃く、この大学に来てよかったと思えるものだった。6年後に実際に医療現場で働く時にもこのマインドを忘れないようにしたい。

## 14. 教員アンケート結果

(1) あなたの所属学部を教えてください。 (選択)



(2-1) 学生にとって、卒業生・在学生の動画メッセージは、有意義だったと思いますか。(選択)



(2-2) (2-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答数：30（以下重複意見等は削除）

具体的な学生生活がイメージできる内容であったため

卒業後、在学中のイメージが湧きやすい

将来の目的意識が高まったと思います。

よく伝わっていたと思います

同じ学部の先輩の生の声は伝わる物があるし、これからをイメージできると思います。

今後の学生生活を有意義に過ごすための参考になるから。

学生さんの困り事に具体的に答えてくれていたと思いますし、楽しさが伝わってきて安心できたと思います

特に現役の先輩の話は、会話のきっかけとして役立っていたように思う

先輩の話は、自分の今後の学生生活の参考になると思う

有意義だったと思うが、時間は守る方がいいと思いました。

近い未来のモデルケースを理解するという意味で有用と思いました。

1年生がこれから気になるであろうことを具体的にアドバイスされていたところ

有意義ですが、3x2で少し間延びするかもしれません。とはいってもカットも難しいとは思います。

身近にかつ具体的に将来を感じることができたから

学部の特徴が出てました。

将来活躍する姿や大学生活のイメージがついたのではないかと思うから

学年が上がってからのことは、このような話を聞かないとわからないと思うため。

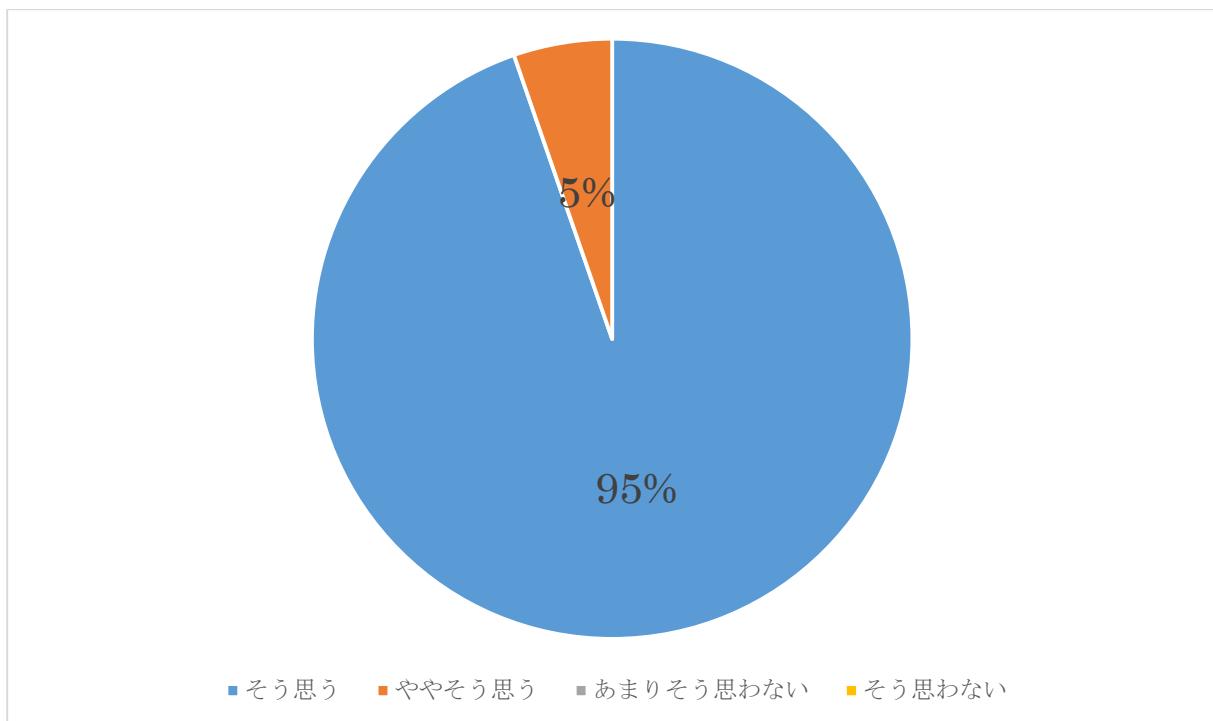
卒業生や在校生が経験したことは新入生の参考になるので。

大学生活を送るにあたり経験者からの言葉はとても印象に残ると思います。

自学部に加えて、他学部の先輩の卒業後の活躍や在学中の活動を知ることができたものと思います。

一部でやや理解できない内容もあったが、それ以外は良かったと思います。

(3-1) 学生にとって、グループ別討議は、有意義だったと思いますか。(選択)



(3-2) (3-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答数:30 (以下重複意見等は削除)

医薬看で話し合えたこと。

はい、滑り出しが重要で話しやすい環境作りが必要だと思いました。

違う領域の人同士で話せたのが良かったと思います。

楽しそうに討論が出来ており、IPE の 1 番最初のプログラムとして最適だった。

意見を出し、協力して作品を仕上げ点では、コミュニケーションや他者理解も体現できていた  
最初は話しにくかった人も発言が増えてきたし、表情が明るく変わっていました。仲間意識が芽  
生えたのも効果的だったと思います

薬学部が多いですが、ほとんど何も専門知識がない今だからこそ、平等に出来たと思います。

他の学部生と関わる唯一の機会だと思います。

他の人、他学部の人の意見や考え方を共有できた。

短期間で仲良くなり、さらに医療人については多職種の学生で話し合えて導入的な連携と言う意  
味で良かったと思う。

目標に到達するまでのモチベーションを学部横断的に共有できたところ

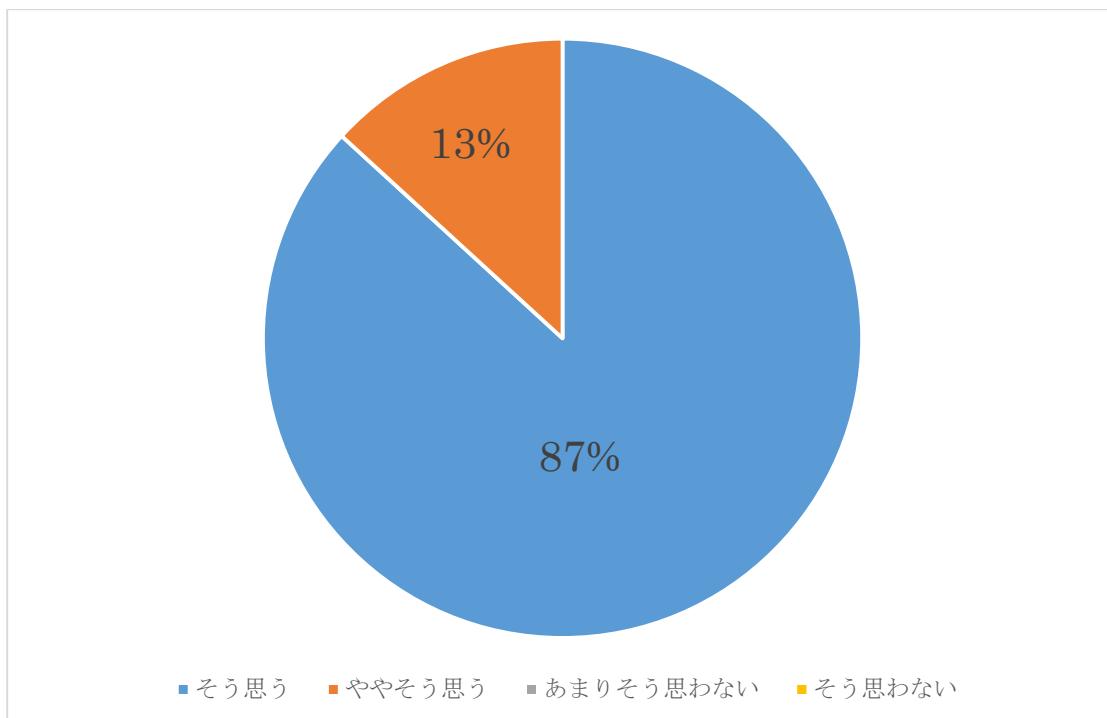
よいと思います。討議課題は何パターンか用意できるのかを検討したいです。

学部間で交流が出来たと思うから

初対面の人とコミュニケーションをとって、課題解決する機会となったから

普段関わらない人と関わるきっかけになったと思うため。  
三学部で行う事で友人、知人の輪が広がったと思います。  
何より入学してすぐのこの時期に三学部が一緒に話しあいながら、一つのことをまとめていくことが出来たことは良かったと思います。  
初対面でもすぐに打ち解けて議論しており、そのような姿勢は医療現場に出ても必要だから。

(4-1) 学生にとって、講演（救急蘇生）は有意義だったと思いますか。（選択）



(4-2) (4-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。（自由記述）

回答数：25（以下重複意見等は削除）

命に関わる話だった。

初めは積極的であったが、途中から疲れた表情にみえたため

医療人としての意識が高まったと思います。

BLS の重要性が学べるから。

取っつきやすかったと思います。勇気を出して臨めるのではないか

勇気を出して人を助けることが出来ると思う

日常に可能性があることを知り、現場でも使用できるため。

このような講演を聽ける機会が少ない。

こういう研修で実施するには、ちょうどよい内容だと思います。どうしても疲れてくる時間帯に

なると思うので、講演時間をもう少しコンパクトにしてもよいかなと思いました。

医療人としての責任を認識できたから

若い時には人の生死に出会うことは少ないので、よかったと思う。

これから医療者になる上でできるようにならないといけないことだから

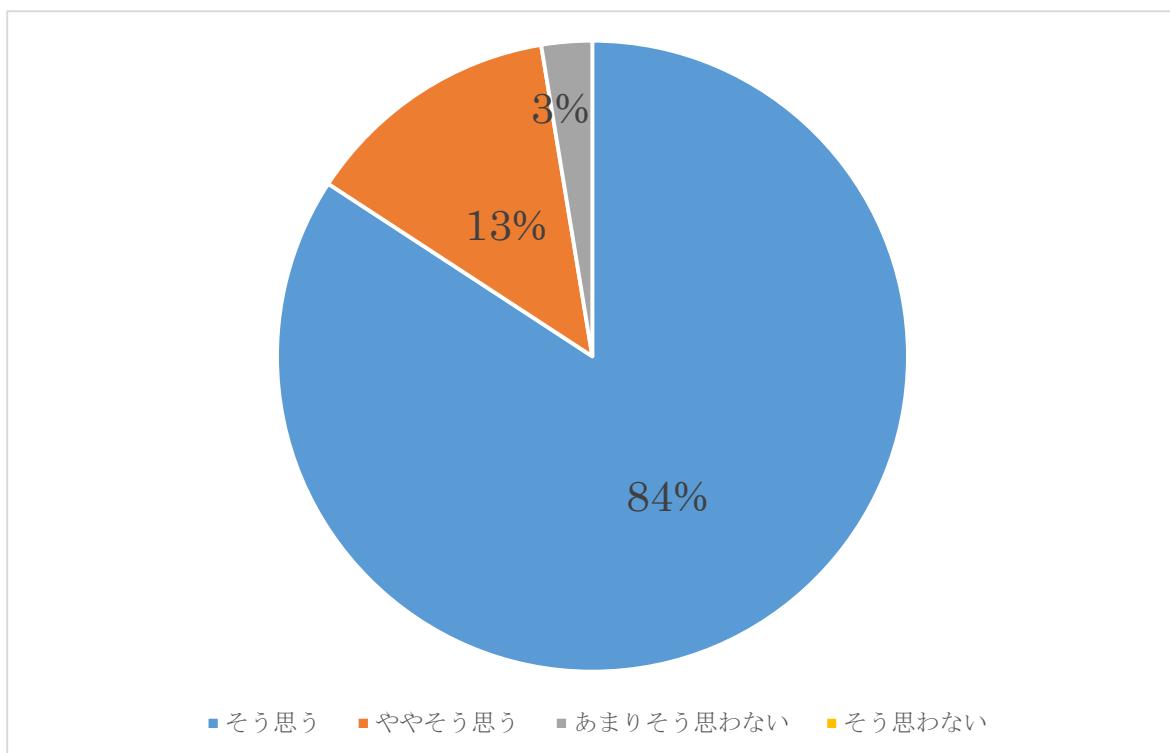
心臓について踏み込んだ話があり、医療系大学に合う内容だったと思うため。

命の尊さを鑑賞したビデオ及び講演から感じとったと思います。

命の大切さを考える機会になったと思います。

殆どの学生が、初めて聞く内容だと思うので。

(5-1) 学生にとって、実技（救急蘇生）は有意義だったと思いますか。（選択）



(5-2) (5-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。（自由記述）

回答数：23（以下重複意見等は削除）

今後の生活に活きるため。

医療系学生としては習得できていなければならぬスキルだから。

身体を動かすことでの盛り上がりがあったと思う

体を動かして身につけるのはいいと思いました

胸骨圧迫に必要な力など、やってみないと分からぬいため。

見て聞くだけでなく実際にを行うことで身につきやすいと思う。

時間帯としても実技は有用だと思います。

実際に遭遇した際に出来るようになるためにも有意義だった

0と1とでは全く違うので、ある程度有意義だったと思います。

体験にはなるが、きちんとした圧迫ができていなくとも修正する時間が取れていなかったので

座学でなく、体験できたから

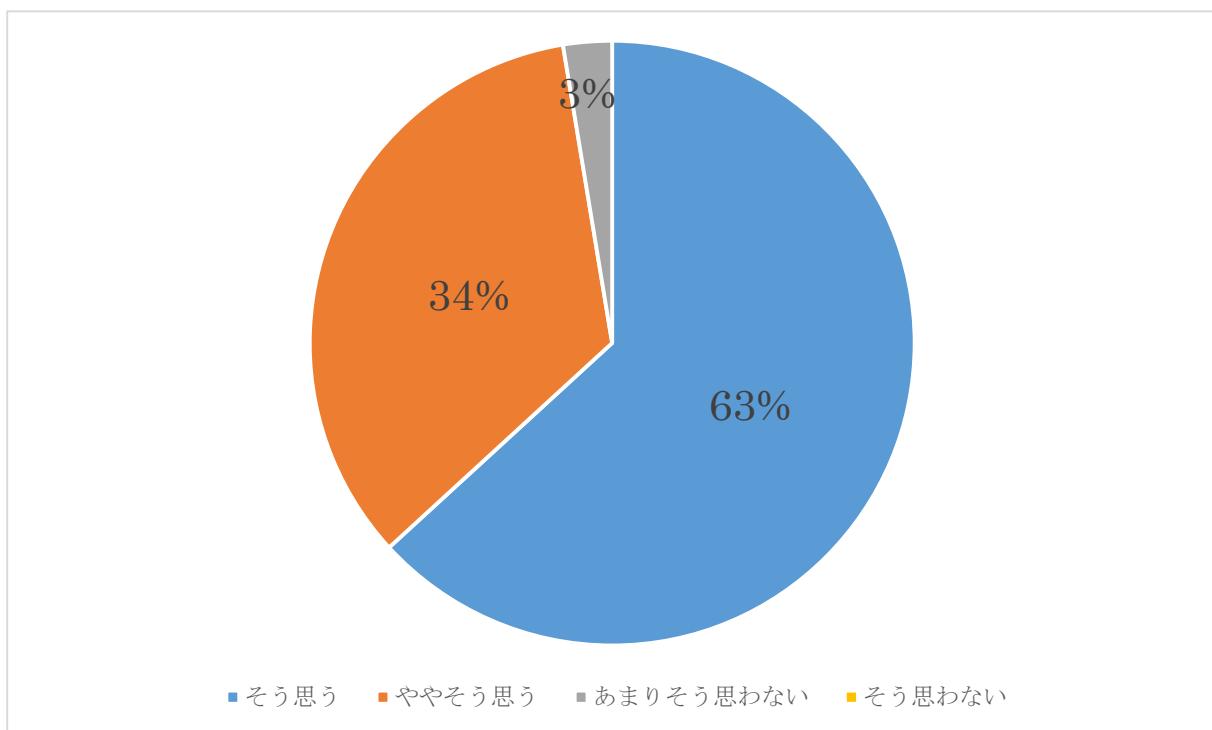
これまでに一度は何かの機会に講習を受けているはずだが、日が経てばうろ覚えになるので、いい復習の機会になったと思うため。

いざとなった時に役立つもので冷静に行う為には必要だって思います。

これから医療人を目指すことをより実感できたのではと思います。

殆どの学生が、未経験だったので。

(6-1) 学生は、良き医療人となるために必要なことが理解できたと思いますか。(選択)

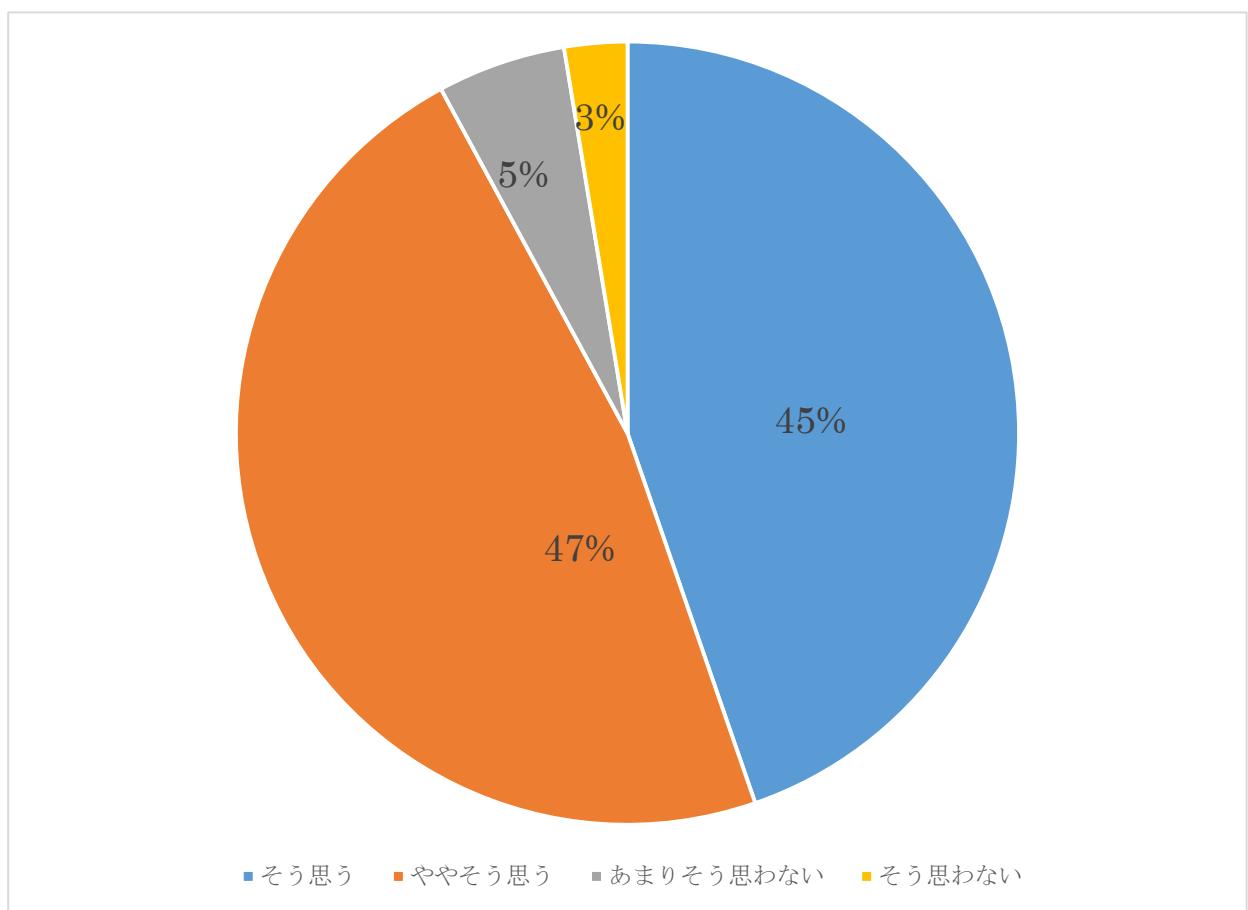


(6-2) (6-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答数：19（以下重複意見等は削除）

- これからの学生生活に少しでも役立つ討論になったと思う。  
良き医療人になるために必要なことを考える時間を得られたから。  
午前のをみていて他学部の考え方の違いは為になっているように感じた  
真剣に取り組んでいたので理解できたと思います。  
グループワークを見ていて、学生生活へアクティブプランを落とし込めていたため。  
これだけで理解できるものではないが、導入的な意味で有用であったと思う。  
三学部が集まるのはこの機会が最初で最後かもしれませんのでよい研修になったと思います。このマインドを如何に継続できるかが課題だと思います。  
いろいろな意見をもらい、いろいろ考え、理解できたのではないかと思います  
アクションプランを具体的に考えられていないグループが散見されたから  
グループワークしたことといくつかのポスターで気づきがあったと思うから  
自分の考えをまとめることに加え、班員の意見をポスターに組み込む、多班の作品を見るといったことで、視野が広がったと思うため。  
大勢で話し合うことで改めて意識出来るので。  
理解出来たどうかはわかりませんが、きっかけにはなったと思います。  
多職種と協力することが必要だと学んだと思います。

(7-1) 設問 7-1 学生が、自分自身のキャリアデザインを考えるうえで、今回の研修が役に立ったと思いますか。（選択）



(7-2) (7-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。（自由記述）

回答数：15（以下重複意見等は削除）

キャリアデザインというよりかは、学生生活を豊かにするためのものだと感じた。

おそらく医療における役割はある程度理解できたと感じる。

卒業生の話があったから。

いろんな人の意見を聞くことができたから。

キャリアデザインは分からぬが、学生生活を有意義に過ごす意欲は沸いたと思います。

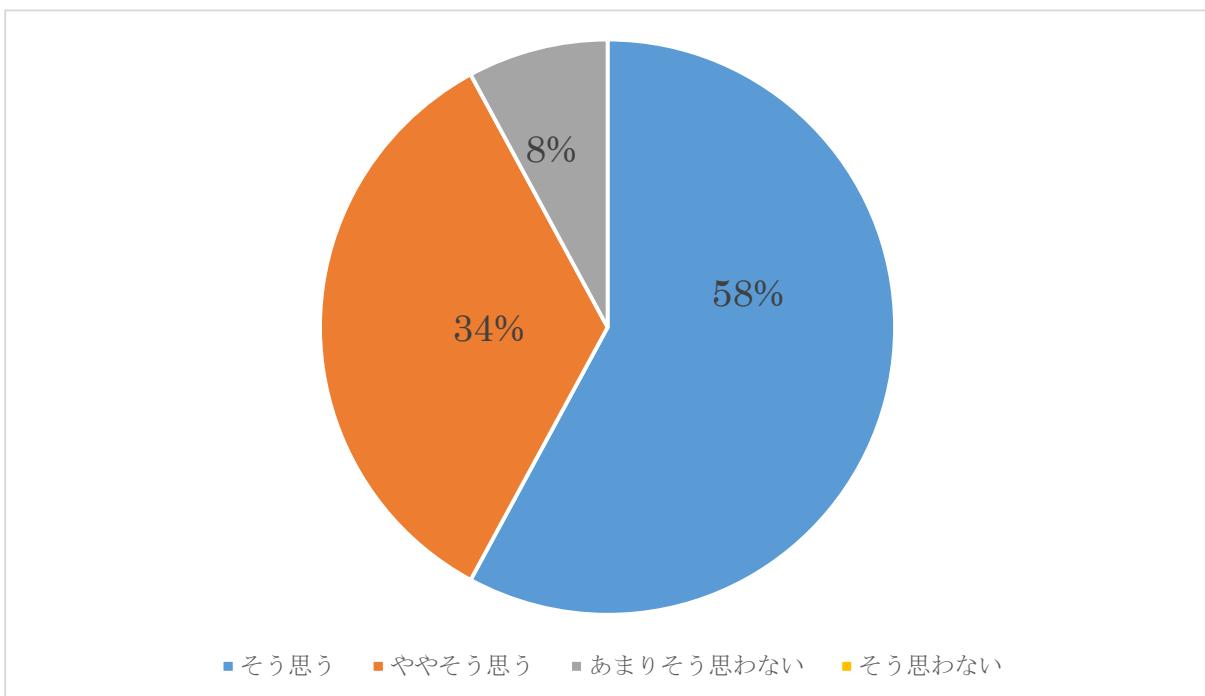
色々な先輩の動画や心肺蘇生、ワークショップを通じて自分の職種のイメージの助けになったと思います。

まだ先の話でもあるが役立ったと思います

現時点ではあまり役立っているとは思わない。

アクションプランを具体的に考えられていないグループが散見されるから各学部の多様なロールモデルを提示する時間は十分なかったと思います

(8-1) 学生は、多職種連携の重要性を理解することができたと思いますか。(選択)



(8-2) (8-1)について、それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。(自由記述)

回答数：15（以下重複意見等は削除）

それぞれの学問の観点から話し合いが出来てきたと思う。

これから経験を積んでいくにつれてもっとわかると思う

他学部の意見を聞いて自分にない考えを知ることができたから。

3職合同でしたがことがよかったです。

他学部とのやり取りで必要性を感じたと思います

3学部の学生が共同作業したが、今回のことでの多職種連携の重要性を理解したかどうかはわからないと思います。

多職種連携に関してはテーマとしてあまり取り扱っていないので、そこまで考えられていないと思う

具体的な連携はまだ想像しにくいと思いました

それぞれの視点の違いや共通点を感じている様子だったので。

ポスター作成の過程により理解できたと思います。

理解出来たかどうかはわかりませんが、重要性を考えるきっかけになったと思います。

医学部、薬学部、看護学部と同じ班で協力したので、自然とその重要性は理解できたと思います。

(9) 3 学部合同で行ったことについての感想や、その他運営全般を含めてご意見があればお願ひします。

回答数：17（以下重複意見等は削除）

ポスター掲示の正面側と裏革があったので、いずれもが学生側になると良いと思いました。

ポスター表彰に何か景品があると良いと思いました。物品でなくてもよいと思います。

昨年の反省点がフィードバックされており、コミュニケーションも弾んだのではないかと思います

発表の仕方やポスターの作り方（3枚中1枚の紙を使用し、他は下書きなどに使う。ポスターは縦向きに作るなど）を事前に伝達しておいて欲しかったです。

チューーターの名札も必要だと思います。誰がチューーターなのかがわかりやすい。

単科大学から総合大学になった強みだと思うので、合同研修は良いと思います。

たいへんまとまった学習にしていただきありがとうございます

よい機会になったと思います。頭や手を動かして能動的に参加する内容になっていると思うので、よいと思います。

学部間の連携の必要性を改めて感じることができました。ありがとうございました。

ポスターを作った後で自由に話せる時間があれば交流が深まると思いました。全部の班の発表が聞きたいと思いました。

消しゴムのカスとか、ウェットティッシュなどを捨てたい学生から、何回もゴミ箱の場所を聞かれたので、会場内のゴミ箱（ゴミ袋）がどこにあるのか伝えると良いと思います。アンケートの自由記述欄は長い回答可能にした方が良いかなと思います。講演ばかりではなく、実技をしたのは良かったと思います。

説明資料の説明が細かい部分と荒い部分があって、何をすればいいかわからなかった  
全学部で行った研修の内容は良かったと思います。